

# 「多摩のスポーツ振興をめざして」

— 子どもの体力向上から  
アスリート誕生への期待  
そしてより活力のあるまちへ —



平成23年2月  
東京都市長会



## —本提言の概要—

### 【本提言のめざすもの】

特に子どもに焦点を当て、体力・運動能力向上からスポーツ活動への導き、さらに、アスリート誕生への期待をこめる。また、地域とアスリートとの結びつきによる活力のあるまちづくりなど、多摩地域全体でのスポーツ振興をめざす。

### 【本提言の基本的考え方】 (図1参照)

東京都の子どもたちの体力・運動能力は、全国的にも低いレベルにあり、その向上策が求められている。このため、「走る」、「投げる」、「跳ぶ」、といった基本的な身体運動ができない子どもに対し、それを確実に身に着けさせるとともに、総括的な体力・運動能力の向上を図ることを基礎とする。その基礎の上に、スポーツという領域に導くとともにスポーツ奨励につなげる。これにより、競技力の向上へと発展させ、さらに、アスリートの誕生が期待できるものとする。

さらに、アスリートや高レベルの指導者を貴重な人的資源として、いかにスポーツ振興施策に活かしていくかということも重要なポイントとなってくる。これにより、スポーツ活動の底辺拡大、さらに、底辺拡大によるアスリート誕生の機会の増加という、全体の構造が循環するものとする。

その際、この循環の中軸にあるものは、子どもの体力・運動能力の向上であり、その施策が継続されなければならない。

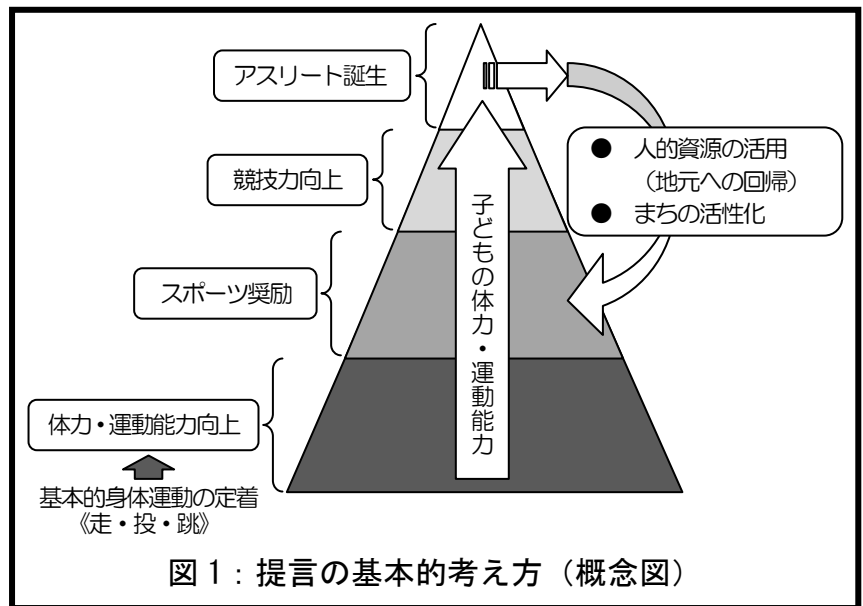


図1：提言の基本的考え方（概念図）

### 【本提言のフレーム】 (図2参照)

#### 第1章 東京多摩国体を契機とした多摩のスポーツ振興

##### —なぜ、今、スポーツ振興なのか—

導入として、スポーツの効用、現在のスポーツ事情を整理する。さらに、国や東京都の施策との整合性を確保するため、その概要を示すとともに、将来の社会の活力を担う子どもの育成のためのスポーツとのかかわりや国体を契機とした多摩地域全体でのスポーツ振興の必要性について述べる。

## 第2章 多摩地域における、子どもの体力・運動能力向上への導き

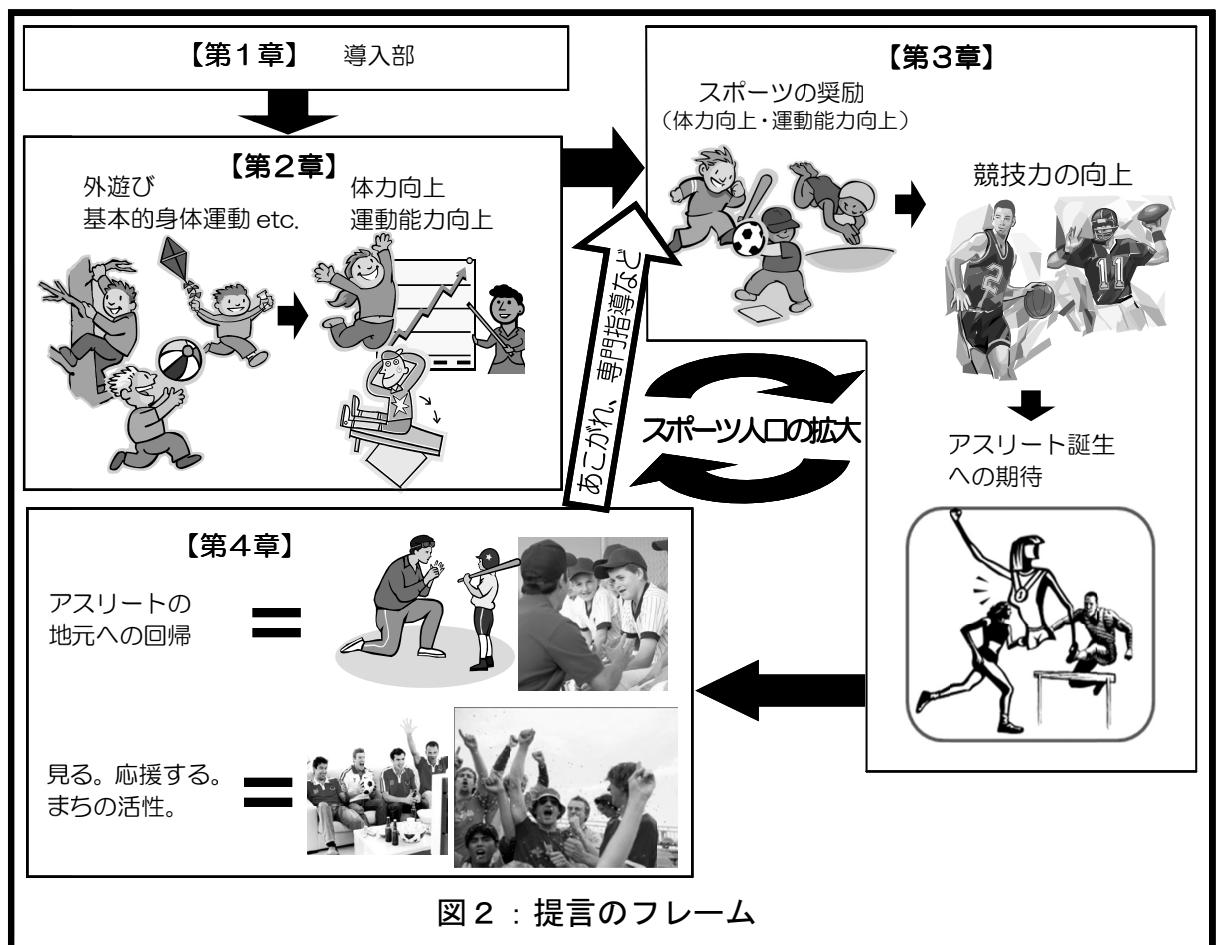
東京都における子どもの体力低下が危機的な状況にあることから、子どもの体力・運動能力について多摩地域の現状と課題を整理するとともに、他県の取り組みの紹介なども交え、子どもの体力・運動能力向上のための施策の方向性と数例の具体的提案を示す。

## 第3章 子どもの競技力向上に向けて—将来・次世代のアスリート誕生への期待—

次世代のアスリート誕生に期待し、体力・運動能力向上の段階から競技力向上という段階にステップアップさせる。このため、競技力向上にかかる多摩地域の現状と課題を整理するとともに、他県の取り組みの紹介なども交え、将来のアスリートを育成・支援するための施策の方向性と数例の具体的提案を示す。

## 第4章 地域とアスリートとの結びつき—スパイラル構造のスポーツ環境—

スポーツ人口の拡大やまちの活性化につなげる視点に立ち、地域ぐるみによる応援、また、アスリートや有名コーチと地域との結びつきなどについて、数例の具体的提案を交え示す。







## 目 次

### 第1章 東京多摩国体を契機とした多摩のスポーツ振興

#### —なぜ、今、スポーツ振興なのか—

1	スポーツは何をもたらすのか	1
2	現在のスポーツ事情	3
3	なぜ、今、スポーツ振興なのか	5

### 第2章 多摩地域における、子どもの体力・運動能力向上への導き

1	子どもの体力・運動能力に関する現状と課題	8
2	他県における子どもの体力・運動能力向上に関する取組み	9
3	子どもの体力・運動能力向上の目標と方向性	13
4	子どもの体力・運動能力向上に向けての施策 ～提案～	13

### 第3章 子どもの競技力向上に向けて

#### —将来・次世代のアスリート誕生への期待—

1	多摩26市の現状と課題 ～26市のアンケート結果から～	16
2	他県におけるアスリート育成・支援に関する取組み	16
3	競技力向上に伴う将来・次世代のアスリート誕生に向けて	17
4	将来・次世代のアスリートの誕生に向けての施策 ～提案～	20

### 第4章 地域とアスリートとの結びつき

#### —スパイラル構造のスポーツ環境—

1	我がまちのアピールポイントに	22
2	アスリートや指導者の活用 ～「押し上げる力」と「引き上げる力」～	23
3	東京多摩国体を契機とした地域の活性化	24
4	応援する仕組みのきっかけづくり ～提案～	24

### 【資料編】 多摩26市に対するアンケート結果

## 第1章 東京多摩国体を契機とした多摩のスポーツ振興

### —なぜ、今、スポーツ振興なのか—

#### 1 スポーツは何をもたらすのか

文部科学省のスポーツ振興計画では、スポーツの意義として、『スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす、さらには、体力の向上や、精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に資するものである。』とし、さらに、『スポーツは社会的に「青少年の健全育成」、「地域における連帯感の醸成」、「国民経済に寄与」、「国際的な友好と親善」という意義を有し、その振興を一層促進していくための基盤の整備・充実を図ることは、従前にも増して国や地方公共団体の重要な責務の一つとなっている。』としている。

スポーツがもたらすものは他にも様々あるが、ここでは、スポーツの意義を踏まえ、基礎自治体にとって課題となっている「子どもの体力向上・社会規範の育成」、「団塊の世代の地域デビュー、生きがいつくり」、「地域コミュニティの再生」の3点について整理してみることにする。

#### (1) 子どもの体力向上・社会規範の育成

文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、子どもの体力・運動能力は、昭和60年ごろから現在まで低下傾向にある。

また、運動する子どもとしない子どもの二極化や「走・投・跳」といった基本的な運動能力の低下、肥満などによる生活習慣病の増加の懸念が指摘されている。これら以外にもキレる、社会のルールが守れない、円滑な人間関係を築けないなど、心の不安定な子どもの存在も問題となっている。

#### ○ 体力の向上・生活習慣病等の予防

外遊びや運動・スポーツを通じて体を活発に動かすことで、体力や運動能力を高めるとともに、病気などから体を守る基礎体力が強化される。さらに、体を動かす爽快感からストレスが発散され、心身ともに、より健康な状態を保つことができる。

また、年齢や体力に応じた運動やスポーツを継続することで、肥満や高血圧などが解消されることにより生活習慣病が予防されたり、カロリー消費により適正な体型が保たれることで、過度なダイエットによる栄養障害が防止されたりする効果もある。

#### ○ 豊かな人間性の形成・社会規範の育成

校庭や公園などで異年齢の集団で遊ぶことにより、コミュニケーションを図りながら、まわりの状況を考えた行動ができるようになる。このことから、人との関係のあり方や相手の立場に立った思いやりの気持ちを持つなど、豊かな人間性が形成される。



また、子供会や地域のスポーツクラブに参加し、スポーツのルールや団体の決まりごとを守ることで、フェアプレーの精神や社会のルールの大切さを学び、社会規範が育成される。

## (2) 団塊の世代の地域デビュー、生きがいづくり

長年仕事を生きがいとし、仕事一筋で、あまり地域へ参加していなかった団塊の世代が定年退職期を迎えている。今後の生活の軸が、働く場から地域へとシフトすることになり、地域との関わり合いや友人、仲間づくりなど、地域での居場所づくりが課題となると同時に、仕事以外の新たな生きがいを見いだす必要が生じている。

また、団塊の世代には、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病や今後、医療費や介護費用の負担増などの問題も指摘されている。

### ○ スムーズな地域デビューのために

地域に友人や仲間をつくるには、地域のスポーツクラブなどに参加し、共に汗をかき親睦を深めることが近道である。なお、企業スポーツなど専門的にスポーツを実践していた方には、指導者として参加してもらうのも良い。

スポーツに取り組む仲間が地域に増えることで、地域のイベントにも参加しやすくなり、スムーズな地域デビューを果たすことができる。

### ○ 燃え尽き症候群の防止、充実した生活を送るための生きがいと健康

スポーツは、目標が設定しやすく、達成感や爽快感を味わうことができることから、定年退職後の新たな生きがいづくりに適している。これは、いわゆる、燃え尽き症候群の防止効果を期待できるといえる。

さらに、スポーツは健康増進や生活習慣病の改善にも効果があり、生きがいとしてのスポーツを継続することで、心身の健康が保たれ、充実した生活を送ることができる。

## (3) 地域コミュニティの再生

少子・高齢化、核家族世帯や単独世帯の増加による家族形態の多様化・個人化などによって、地域社会における共助の力も弱まっており、地域コミュニティによるセーフティ・ネットの強化の必要性が高まっていると言われている。

このためには、家族間の良好なコミュニケーションを基に、地域住民が一体となって防犯・防災に取り組み、安心して暮らすことができる良好な地域コミュニティを形成する必要がある。

### ○ 子どもをきっかけとして

子どもが、子供会や地域のスポーツクラブなどに参加することで、家族も練習を見学したり試合の応援に行くなど、家族全員で地域に出ていくようになり、

監督やチームメイトの家族、地域住民と世代を超えた異年齢間交流が始まる。これは、顔の見える地域コミュニティの形成につながり、地域の防犯・防災の強化に役立つと考えられる。

また、近所づきあいが円滑になることで、地域住民による子育て支援コミュニティの形成も期待できる。

#### ○ 高齢者のスポーツ参加から

高齢者のスポーツ参加は、生きがいづくり、生活習慣病や寝たきりの予防などの効果があると同時に医療費などの削減も期待できる。

また、地域に元気な高齢者が多いことは、文化や伝統などが次世代へ継承される機会を増すことにつながる。これは、住民が地域の文化を大切にし、地元へ愛着や誇りを持つことになり、地域の活力や一体感が醸成されることが期待できる。さらに、地域住民が高齢者を敬うことで、声かけや見守りにつながり、高齢者が安心して暮らせるコミュニティの形成への一助となることが想定される。

#### ○ スポーツを通じた国際交流

外国人登録者数は年々増加し、言葉や文化の違いによるさまざまな問題も発生している。同じ地域に住む外国人も地域住民であり、お互いを理解し合い、問題を解決していくには、良好なコミュニケーションが欠かせない。

スポーツは世界共通のルールで行われ、言葉の壁を越えた交流を図ることができることから、コミュニケーションツールとして適している。

スポーツを通じて交流を図り、地域住民の一員として迎えることで国際交流コミュニティが形成されることは、文化の違いから生じる課題の解決につながると考えられる。

## 2 現在のスポーツ事情

アンケート結果から、多摩地域のスポーツへの取り組みの現状を把握するとともに、国及び東京都のスポーツに関する動きから、子どもの体力向上及び競技力向上に関する施策を検証してみる。

### (1) 多摩26市のスポーツの現状 ～アンケート結果から～

各市の、総合型地域スポーツクラブの設置状況や加入率、スポーツ団体等の情報の掌握状況、目標スポーツ人口の設定の状況などからみると、多摩地域のスポーツ振興施策の現状は、地域差はあるものの、まだ十分とは言えない。

今後の施策展開によっては、大きな可能性があると言える。

## ○ 総合型地域スポーツクラブ※1について

総合型地域スポーツクラブは、半数の13市で設置している。文部科学省が発表している「平成22年度総合型地域スポーツクラブ育成状況」を見ると、平成22年7月1日現在で総合型地域スポーツクラブを創設済みである東京都の市区町村数は32となっており、創設率は51.6%であった。また、全国の創設率は57.0%であった。

このことから、多摩地域の総合型地域スポーツクラブの創設状況は東京都及び全国と比べても大差はみられない。

しかし、会員数については、人口に対する加入率が最大で8.6%、他の12市は0.1%~0.5%と極めて低く、地域スポーツの受け皿になっているとは言い難い。また、施設及びスタッフの充実、財源確保、会員拡大など、多くの課題を抱えており、厳しい状況で運営していることが明らかとなった。

### ※1 総合型地域スポーツクラブ

人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、(1)子どもから高齢者まで(多世代)、(2)様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、(3)初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

(文部科学省 総合型地域スポーツクラブ育成マニュアルより)

## ○ 日ごろからスポーツ活動を行っているスポーツ団体について

日ごろからスポーツ活動を行っている団体を把握している市は22市であったが、体育協会加盟団体などがほとんどであった。

しかし、団体への加入会員の年齢階層の把握は4市のみで、ほとんどの市で把握できていない状況であった。

## ○ 目標スポーツ人口について

具体的な目標スポーツ人口を定めている市は11市で、定めていない市が15市と大半を占めている状況であった。定めている11市の中で、本提言のキーポイントとしている東京多摩国体の開催時期で設定している市は10市であった。

国や東京都のスポーツ振興に係る基本計画においても言われているが、スポーツ振興施策を展開していくうえでは、具体的な目標値を設定することが重要な要素であるため、スポーツ振興計画の策定や、目標スポーツ人口の設定が求められる。

## (2) 国及び東京都のスポーツに関する動き

### ア 子どもの体力向上に関する施策(第2章関連)

総合的な子供の基礎体力向上方策 第1次推進計画(平成22年7月 東京都教育委員会)

総合的な子供の基礎体力向上方策は、平成20・21年度に文部科学省により実施された「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」により、東京都の児童・生

徒の体格は全国平均を上回るものの、体力・運動能力は全国平均値を大きく下回る結果を受け、改めて実効性のある対策を講じ、長期的に低下している子どもの体力を、「平成 24 年度には全国平均までに、平成 31 年度には、戦後子供の体力水準がピークであったとされる昭和 50 年代の水準まで向上」を推進計画の目標とし、平成 22～24 年度を第 1 次推進計画、平成 25～27 年度を第 2 次推進計画、平成 28～30 年度を第 3 次推進計画としている。

## イ 子どもの競技力向上に関する施策（第 3 章関連）

### （ア） スポーツ立国戦略—スポーツコミュニティ・ニッポン—（平成 22 年 8 月 26 日 文部科学省）

スポーツ立国戦略は「新たなスポーツ文化の確立 ～すべての人々にスポーツを！スポーツの楽しみ・感動を分かち、支えある社会へ～」をめざす姿勢とし、「人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視」、「連携・協働の推進」を基本的な考え方として、それに導かれる次の 5 点を、今後、概ね 10 年間で実施すべき重点戦略としている。

- ① ライフステージに応じたスポーツ機会の創造
- ② 世界で競い合うトップアスリートの育成・強化
- ③ スポーツ界の連携・協働による「好循環」の創出
- ④ スポーツ界における透明性や公平・公正性の向上
- ⑤ 社会全体でスポーツを支える基盤の整備

### （イ） 東京都競技力向上基本方針・実施計画 ～東京アスリートの現在と未来を支える仕組みづくり～（平成 20 年 3 月 東京都競技力向上推進本部）

東京都競技力向上基本方針・実施計画は、「東京国体における最高得点獲得による総合優勝、オリンピックなどの国際舞台における東京都選手の活躍」を目標とし、目標実現のために次の 4 点を基本方針とし、東京育ちのアスリートが、平成 25 年開催の東京国体や国際大会等の大舞台で活躍できる仕組みを構築するためにとりまとめられたものである。

- ① 東京育ちのアスリートを養成
- ② 競技スポーツの振興
- ③ 子供の体力・運動能力の向上に貢献
- ④ 国体・オリンピック気運の盛り上げ

## 3 なぜ、今、スポーツ振興なのか

景気の低迷、超高齢社会による医療費や介護費用などの負担の増加、子どもの体力低下による将来の社会の活力の低下など、多摩の各市は様々な課題を抱えている。特に、子どもの体力・運動能力の低下は危機的な状況にあり、その対策は喫緊な課題である。

これまでも確認してきたが、これらの課題解決に、スポーツの効用は大変有効で

あり、国や東京都においても、子どもの体力向上や東京多摩国体へ向けた競技力向上など、地域の活性化も含めた施策を発表している。

また、スポーツ振興に関する施策や子どもの体力問題などに関連する記事は、新聞紙上で連日のように目にする。

今まさに、スポーツ振興は旬な課題なのである。

### (1) 将来の多摩の活力を担う子どもの育成

現代の子どもを取り巻く環境は急激に変化をしており、ライフスタイルや遊びの変化から、運動する子としない子の二極化が生じているとともに、異年齢集団での外遊びがなくなってきている。これらの変化から、東京の子どもの体力・運動能力の現状は危機的な状況にあり、このままでは低下の一途をたどると言っても過言ではない。

このような状況を改善するために、外遊びの有効性が取り上げられているが、外で遊ばなくなった現代の子どもに、自主的に外遊びを期待することは難しい。また、学校体育の取り組みに頼っているだけでは、今まで以上のめざましい効果は期待できない。

キャプテン翼<sup>※2</sup>やSLAM DUNK<sup>※3</sup>により、サッカーやバスケットボール人口が増えた事実、あるいはあこがれのプロスポーツ選手と同じ競技を始めるなど、子どもがスポーツを始めるきっかけは、あこがれ、人気、ブームなどの外部からの情報に強く影響を受けている。このことから、子どもがあこがれるトップアスリートとのふれあいなどから、子どもの興味がスポーツに向いてくると考えられる。

また、子どもが体を動かすことを楽しく感じ、自主的に外遊びや運動、スポーツに取り組むように導くためには、関係する行政の各部門が連携し、保護者や学校、地域と一体となって取り組む必要がある。

これら、あこがれや地域ネットワークなどをうまく組み合わせた施策を展開し、継続していくことで、子どもの体力向上が永続的に図られ、将来的には、新たなアスリートの誕生も期待できると言えよう。

#### ※2 キャプテン翼

作者、高橋陽一氏によるサッカー漫画。1981年から「週刊少年ジャンプ」に連載され、アニメ化もされた。

#### ※3 SLAM DUNK

作者、井上雅彦氏によるバスケットボール漫画。1990年から「週刊少年ジャンプ」に連載され、アニメ化もされた。

## (2) 東京多摩国体を契機としたスポーツ振興への取組み

これまで、「スポーツの効用」、「アンケートから多摩地域の現状」、「国や東京都の施策」について整理し、子どもの体力・運動能力の厳しい現状を確認してきた。

多摩各市の現状においても、子どもの体力の低下やスポーツ振興などは大きな課題であることは認識されていても、これらに対する施策は十分とはいえない。

喫緊とも言えるこれらのスポーツに係る諸課題に対して、具体的に取り組む大きなきっかけは、平成 25 年度に開催される東京多摩国体である。

国体は、多種目の全国トップレベルの競技をライブで間近に見ることができ、スポーツを観て、応援して、アスリートとふれあうことでスポーツの楽しみを知ることができる祭典である。また、行政としては、施設の改修、内部組織への専門部署の立上げなど、スポーツインフラの再整備を図ることができる。

そして、東京多摩国体終了後には、整備されたスポーツインフラと行政、学校、地域などとのネットワークを活かし、新しい形のスポーツ行政を進めることも可能である。

多摩全域がスポーツ一色に染まる東京多摩国体を契機に、スポーツの気運を高め、スポーツにいつでも気軽に取り組むことのできる魅力的な仕組みとネットワーク作りを進め、多摩地域全体で一斉に、子どもの体力・運動能力の向上、スポーツ人口の拡大をめざして、地域の活性化にもつながる新たなスポーツ振興等が展開されることを期待したい。

## 第2章 多摩地域における、子どもの体力・運動能力向上への導き

### 1 子どもの体力・運動能力に関する現状と課題

#### (1) 現状について ～現在の子どもの体力・運動能力の状況～

昭和39年から文部科学省で実施している「体力・運動能力調査」の調査結果では、昭和60年ごろから体力・運動能力の低下傾向が見られる。

また、同省が、平成20年度から実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果における、東京都の小学校5年生男女及び中学校2年生男女の全47都道府県の中での順位は、平成22年度調査まで継続して40位前後である。

一方、東京都から指定されたスポーツ教育推進校の小中学校数校においては、子どもの体力・運動能力は二極化しているというのが教育現場の共通した認識であった。スポーツ教育推進の成果が見られる一方で、スキップができない、また、ボール投げを苦手としている児童がいるなどの現状に危機感を持つとともに体を動かす基礎となる生活習慣においても、食生活の乱れや睡眠時間の不足など、現状を憂慮する教育現場の声もあった。

#### (2) 課題について ～子どもへ働きかける積極的な取組みの必要性～

子どもの体力・運動能力の現状が深刻になった原因の一つとして、外遊び、つまり「体を動かすこと」にかかる時間の減少が指摘されている。このことから、年々低下してきた体力・運動能力を上昇に転じさせるためには、三つの間（時間、空間、仲間）を提供するなど、子どもが体を動かすきっかけ作りを行う必要があると言える。

しかし、こうした積極的取組みを行っている学校は半数に満たないのが現状である。子どもが長時間過ごす学校で体を動かす機会を増加させるとともに、家庭や地域でも同様に体を動かす機会を設ける仕組み作りが求められている。さらに、高い効果を期待すれば、学校、家庭、地域の連携も重要であり、行政がそれを支援していく仕組みをどのように作るのか、これが大きな課題である。

## 2 他県における子どもの体力・運動能力向上に関する取組み

平成 21 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」における総合得点の平均値が上位の県を中心に、実践事例の紹介を交えながら、今後の施策の方向性を探りたい。

### (1) 千葉県から ～意欲や意識の向上と、行政、学校、家庭での連携～

千葉県では、子どもの意欲をかきたてることはもとより、学校や教員への意識の向上を図るなど、広い視野により各種事業を展開している。学校だけで完結するのではなく、行政や家庭がサポートし一丸となって取り組むことで、子どもの体力・運動能力について全国的に高い水準を維持している。

#### 【千葉県の実践事例】

##### ● 体力づくり推進モデル校認定事業

特色ある体力づくりを実践している小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の申請に基づき、選考のうえ「体力づくり推進モデル校」として認定証を授与している。モデル校の取組みを県ホームページに掲載するなどして、近隣校に普及を図っている。

##### ● いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において、授業間の休み時間や昼休みの時間に、クラスやグループ単位で教員立会いのもと、決められた種目について児童・生徒がそれぞれ記録に挑戦し、結果を県へ報告する。この結果を各種目上位 10 位までを県ホームページに掲載し、1 位には記録認定証を授与するとともに、学校単位では、記録の報告数が多かった上位 10 校に賞を授与している。

##### ● 体育の授業マイスター認定事業

小学校及び特別支援学校小学部における体育の授業において、指導力が高く、教育実践などに顕著な成果をあげている教員を各市町村が推薦し、県が選考のうえマイスターとして認定する。認定されたマイスターは授業を公開し、他の学校、教員への資料提供や助言などの支援を行う。

##### ● いきいきちばっ子健康・体力づくりモデルプラン

「休養・睡眠の問題」、「食の問題」、「体力の問題」の 3 点について、子ども自らの課題をつかみ、目標を設定し、主体的に望ましい生活習慣を実践する力を育むことを目的としている。

「①生活習慣のチェック」、「②チェック結果のグラフ化」、「③グラフで低い部分の改善策を自ら考える」、「④改善策を具体化した健康・体力づくり作戦の記入」、「⑤カレンダーを用いた実践と評価」の 5 段階の手順に分けたパンフレットを作成し子どもに実践させている。



- 「体力アップ大作戦」リーフレット

家庭で取り組める体力向上プログラムとして、計16種類の運動を紹介したリーフレットを各家庭に配布している。運動のほかに食事と睡眠が大切であることも啓発している。

(2) 福井県から ～体力・運動能力向上に取り組む文化の定着～

福井県では、昭和38年度から運動能力テストを実施しているほか、昭和60年度から独自の施策を展開するなど、県を挙げて体力・運動能力の向上に継続的に取り組んできている。そのため、各学校が積極的に取り組む文化が根付いている。また、PTAによりマラソンコースが整備された学校もあるなど、家庭や地域の意識の高さもあり、子どもの体力・運動能力は常に全国的に高い水準を維持している。

【福井県の実践事例】

- 新体力テストにおける報告書

体力テスト実施後に、各学校で報告書を作成している。報告書は、テスト種目ごとに自校の平均値と県平均値が並べて掲載され、各校はそれを確認するとともに、効果を上げた取り組みや今後の対策について記入するようになっている。また、児童・生徒個人の記録を、継続して記入できるカードも作成し活用している。

- 各学校における体力向上に向けた取り組み

年度当初に各学校独自の体力向上計画書、年度末に取り組みの成果と課題が記入された報告書を作成している。

- 「ザ・チャレンジ」の実施

時間走の部となわとびの部の2部門について、各学校が、指定された方法に基づき実施、児童・生徒の記録を県へ報告し、県は上位200名をホームページで紹介している。

- スポーツ大好きっ子育成事業

年度ごとにモデル校を指定し、各モデル校は運動習慣を持たない児童を対象として、概ね週に1回から2回、放課後の1時間程度、教員の指導による運動の機会を提供し、児童の興味を刺激する体を動かす取り組みを行っている。

その内容は、年間を通し時期を定めて、陸上運動、水泳といった一般的な運動から、キンボール、タグラグビー、水球、ホッケーなど一般には体験できない種目まで、複数種目を各校が選択し実施している。

### (3) 富山県から ～立山という資源を活かした実践～

富山県では、平成19年度より、県を挙げて学校におけるユニークな事業を展開し、子どもの体を動かす機会を積極的に作っている。内容を工夫することで、熱心に取り組む児童が出てくるなどの成果につながっている。今後継続して行うことで、体力・運動能力が目に見えて向上する期待と可能性は高いと言える。

#### 【富山県の実践事例】

##### ● みんなでチャレンジ3015

1・2年生、3・4年生、5・6年生の学年ごとに区分された運動メニュー（ドッジボールなどの集団遊び、竹馬や鉄棒などの用具や遊具を使った遊び、ジョギングや短なわとびブリッジなどの一人でできる運動等）の中から、各自チャレンジしたい運動を実践する。各運動メニューには、5点、10点、20点とそれぞれに点数が設定されており、チャレンジした運動の点数をシートに記入し3015点をめざすものである。ちなみに、富山県の代表する立山の標高は3015mである。

みんなチャレンジ  
3015

●とくてんびょう ●1にち4こまで、いろをぬれます。●ゴールしたら、せんせいにみせましょう。

3. たんなわとび  
(あわせて100かい)

4. V字バランス  
(10びょう)

5. ブリッジ  
(10びょう)

6. かたあしだち  
(みぎ 20びょう  
ひだり 20びょう)

7. かたあしけんけん  
(みぎ 10m  
ひだり 10m)

8. アザラシあるき  
(10m)

9. いぬあるき  
(10m)

10. かえるとび  
(10m)

1年生用 ゴール 3015

2年生用 ゴール 3015

【チャレンジシートの一部】

#### (4) 研究協力校の現場から

福井市本郷小学校は、福井県において4校が指定されている、子どもの体力向上支援事業における研究協力校のうちの1校である。教科体育だけでなく、始業前や授業間の休み時間活動に力点をおいて活動している。また、福井市では体を動かすことに関連した学校行事として、市内全ての小学校が一同に会す連合体育大会や器械運動交歓会、校内行事の校内体育大会や校内マラソン大会など多くあり、体力・運動能力向上に一役買っている。

##### 【福井市本郷小学校の実践事例】

###### ● 教科体育

教科体育では、フラッグフットボール※4、スポーツリバーシ※5、1から9までの数字が書かれた文字盤への跳び箱からのジャンプなど、児童が夢中になって、楽しみながら知らず知らずのうちに、様々な動作を身につけられるよう、ゲーム感覚で授業を進めるとともに、積極的に新しい用具を取り入れている。



サーキットトレーニングの様子

###### ● 業間活動等

始業前には体育館の雑巾がけ、業間活動では週3回全児童を対象に、短距離走、時間走、なわとび、サーキットトレーニング※6を実施している。本校でのサーキットトレーニングは、本郷小学校の独自メニューとして、あらゆる基本的な身体運動をさせるため、①シャトル投げ、②壁倒立、③ロープ登り、④柔軟体操、⑤肋木ぶらさがり、⑥ミニハードルダッシュ、⑦平均台、⑧大なわとびの8種目を設定している。音楽を流す、教員が参加し積極的に児童を手助けするなどの工夫により、児童のやる気を向上させ、飽きさせないような工夫をしている。

##### ※4 フラッグフットボール

アメリカンフットボールで行われる「タックル」に代わり、プレーヤーの腰の左右につけた「フラッグ」を取ることに置き換え、敵味方の選手同士の身体的接触は原則として禁止（反則）とした、より安全で幅広い層が参加出来ることをめざしたフットボール。

##### ※5 スポーツリバーシ

屋内などでのオセロ的なゲーム。青、黄の2チームに別れ、制限時間を決め、両面が青色又は黄色の円盤をいかに自チームの色に多く変えられるかを争う。「走る」、「しゃがむ」などの身体を機敏に動かすことや相手の動きを読む洞察力も必要で、簡単ではあるが夢中になれるゲーム。

##### ※6 サーキットトレーニング

短時間の区切りで、途中で休息を入れず、複数の種目を循環させるように行うトレーニング方法。

### 3 子どもの体力・運動能力向上の目標と方向性

前述1の現状と課題及び2の他県での取組みを踏まえ、子どもの体力・運動能力向上に向けた施策の方向性を整理する。

このため、子どもの体力の具体的な数値目標を、東京都と同様に表1のとおり設定する。

表1 東京多摩26市における児童・生徒の体力目標水準

年度	平成24年度	平成31年度
目標	体力水準を全国平均へ	昭和50年代の体力水準へ

#### (1) 体を動かす機会を提供すること

他県の施策にあるように、体力・運動能力向上のためには、子どもが体を動かしたくなるような工夫が求められる。不足した体を動かす時間を増やすため、学校の休み時間や放課後の時間を活用することや、多くの子どもが体を動かすことに興味を持ち、継続できるような工夫が欠かせない。

#### (2) 体を動かす空間を提供すること

学校にいる時間以外においても、子どもが体を動かして遊べるような取組みが求められる。現状の公園などのハード面を整える一方で、ボランティア、町内会などの地域の人的資源を活用して見守るなど安心して遊べる環境づくりが必要である。

#### (3) 行政、学校、家庭、地域が一体となった動き

子どもの体力・運動能力向上のためには、体を動かす基礎として、生活習慣の向上や仲間づくりなども求められる。これらは、学校や家庭など単独での取組みばかりではなく、各部門が連携することによって、より効果が上がるものである。

### 4 子どもの体力・運動能力向上に向けての施策 ～提案～

前述3の、子どもの体力・運動能力向上を達成するための目標と方向性を踏まえ、具体的な施策を提案する。

#### (1) 学校丸ごと体力向上

##### ○ 学校における課外時間における取組み

始業前や休み時間を活用し、週に1回以上児童や生徒に体を動かす機会をつくる。教員が参加し、新たな用具を活用するなど楽しみながら体力・運動能力の向上をめざす。

### 【具体例】

- 始業前・・・教員対児童の体育館、廊下の雑巾がけタイムアタック。
- 休み時間・・・教員対児童の鬼ごっこ。

### ○ 放課後における体カアップ総合運動クラブの設置

週に1回、放課後の30分～1時間程度、校庭、体育館などで総合運動クラブを実施する。日常あまり馴染みのない、鬼ごっこ、陣取りなどの伝承的な体を動かす遊びや、タグラグビー、ホッケー、水球などの運動、スポーツを導入するなど、児童・生徒が楽しみながら体を動かす工夫を取り入れながら行う。また、継続できるように、月や季節によって内容を変える。

### ○ 市内合同体育大会の実施

市内の学校が一堂に会す大会に参加するという目標を設定することで、児童・生徒の意欲を高め、大会に向けた始業前、休み時間、放課後の時間を活用した練習などで体を動かす機会を増やす。競技内容を工夫し、得意な子だけが活躍するのではなく、全児童・生徒が参加できるようにする。

### 【全児童参加種目例】

- ○○人○○脚競争・・・各校クラスごとに対抗戦を行う。クラスの人数に応じた対抗戦とする。
- 学校対抗遠投大会・・・学校全員が遠投を行い、平均値で対抗する。
- 学校対抗大なわとび大会・・・なるべく多人数での大なわとび。跳べた回数を争う。

### ○ 体育の授業におけるチームティーチングの導入

体育の授業は、児童・生徒が体を動かす貴重な時間である。しかし、教師が用具の出し入れやライン引きなどに時間が割かれることで、授業時間が短くなることや、児童・生徒のそれぞれのレベルに合わせた授業の組み立てが難しいなどの問題がある。そこで、体育の授業を二人体制で実施するチームティーチングを導入することで、チームワークによって授業時間をフル活用でき、児童・生徒のレベルに合った指導を分担して行うことができるため、そういった問題を解消し、より質の高い授業を行えるようにする。

### ○ 学校における体力通信簿 ～体力・運動能力の見える化～

各学校で実施された体力・運動能力調査について、調査種目ごとの数値結果を年度ごとに蓄積して記入できるようにした通信簿を作成する。毎年度、児童に結果を振り返らせ、次年度に向けての目標を自ら考え、通信簿に記入させる。得意な動きや苦手な動きを学校、児童・生徒、家庭が把握することで、連携した具体的な取組みへとつなげることができる。

また、学校全体の調査種目ごとの数値結果を、全国平均値や東京都平均値と

比較できるようにした上で、多くの人の目に触れる場所に掲示し、常に当該校の体力・運動能力値が分かるようにすることも、学校を挙げての取組みにつながる事が期待できる。

## (2) 街なか丸ごと遊びの空間

### ○ 安全、安心遊び場作り事業

公園や遊び場での外遊びは、体力・運動能力向上に欠かせないものである。児童が外遊びを積極的に行えるように、公園や遊び場で地域住民が児童の安全を見守る仕組みを作ることで、より安全、安心な遊び場を提供する。

### ○ 道路の遊び場化事業

子どもに新たな遊び場を提供し、体を動かす機会を増やすことを目的として、道路の一定区間を、休日の数時間、区域内の住民以外の自動車や自転車の乗り入れを禁止して遊び場とする。場所を提供するだけでなく、自治会や周辺住民に呼びかけ、大人が子どもに遊びを教え、一緒に遊ぶなど、地域住民の憩いの場となるようにする。

## (3) サポート体制の整備 ～子どもの体力向上推進本部の設置～

子どもの体力・運動能力向上のためには、地域特性を活かしながら様々なアイデアを出し、学校、家庭、地域などについて総合的な施策を図る必要がある。そこで、従来の部署の枠組みを超えた、子どもの体力向上推進本部を設置してはどうか。

## (4) 表彰制度の創設

前年度結果より著しく数値が上昇した上昇率の上位の市を表彰するとともに広く紹介する。また、上位ではなくとも、ユニークな取組みを実施しており、今後期待ができる市に対しても同様に表彰し、紹介する。これは、各市におけるさらなる体力・運動能力向上への機運を高めることにつながる。

### 第3章 子どもの競技力向上に向けて—将来・次世代のアスリート誕生への期待—

#### 1 多摩26市の現状と課題 ～26市のアンケート結果から～

競技力向上に関するアンケートから、主な結果を挙げると、まず、指導体制の現状については、「全体的に整っている」と回答した市が11市（42%）となっており、逆に、「整っていない」または「種目によって整っている」と回答した市は15市（58%）であった。

また、スポーツ振興に係る基金については、3市（12%）が基金を設置しているが、23の市（88%）において設置されていない。

そのほか、スポーツ関連施設の整備に関する現状として、東京多摩国体の開催に向けて23市（88%）が競技開催施設の整備を行っている。

以上のことから、いわゆるハード面においては、完全とは言えないまでも、ある程度整っている部分が見られる一方、指導体制に関する取組みやスポーツ振興のための安定的財源供給に関する取組みなどのソフト面に整っていない部分が見られる。

特に指導体制の整備や財政的支援については、競技力向上を図るうえで必要不可欠であり、高いハードルではあるが解決していかなければならない課題である。

#### 2 他県におけるアスリート育成・支援に関する取組み

国、東京都も含め、全国各地で競技力向上に関する取組みが行われているが、前述の現状と課題を踏まえながら、様々な競技力向上に係る課題の解決に向けた取組みを積極的に進めている2つの県から、その方向性を探る一助とする。いずれの県も国体を契機として、その取組みの充実が図られている。

##### (1) 富山県から ～アスリート発掘、指導体制、応援体制に関する取組み～

「2000年とやま国体」以降、選手や指導者の世代交代や地元離れ、企業チームの撤退などにより国体の成績が下降している状況を背景に、競技力向上に向けて様々な施策を積極的に展開している。主に次の3点は、競技力向上に向けた課題解決に向けての参考になると考える。

##### ○ アスリート発掘に関する取組み

県民体育大会、県民スポーツ・レクリエーション祭など県で開催されるスポーツ大会を統合し、「富山県スポーツフェスタ」（チャンピオンスポーツ部門、地域対抗スポーツ部門、交流スポーツ部門、体験スポーツ部門の4部門で構成）として開催し、大会の魅力を高め、参加者の拡大とともに、アスリートの発掘を図っている。

##### ○ 指導体制に関する取組み

経験豊富な指導者（「スーパーコーチ」として委嘱）を県内の中学校、高等学校へ派遣し、指導者への指導力向上支援、生徒への指導・助言、学校及び地域

のスポーツ関係団体との協力体制の支援など、部活動運営に係る支援を実施している。

#### ○ 応援体制に関する取組み

平成 22 年度に富山県民スポーツ応援団による募金活動を行い、選手や指導者などを応援する財源とし、その充実が図られている。

### (2) 山口県から ～スポーツ医科学体制整備、指導者養成・確保に関する取組み～

平成 23 年開催の山口国体を見据え、平成 15 年から「やまぐちアスリート育成プラン」を策定し、基盤整備期（平成 15～17 年度）、育成期（平成 18～20 年度）、飛躍期（平成 21～23 年度）の期間設定のもと、各種事業を展開している。主に次の点は、競技力向上に向けた課題解決に向けての参考になると考える。

#### ○ スポーツ医・科学体制整備に関する取組み

やまぐち医・科学サポートセンター (<http://yamaguchi-ikagaku.jp/>) を設置し、各競技団体や各地域へスタッフを派遣したり、スポーツ医・科学に関する情報を提供するなどアスリート育成支援を行っている。

#### ○ 指導者養成に関する取組み

ナショナルコーチなどの優秀な指導者を県外からも招聘し、競技ごとに講習会を開催したり、直接選手指導を行うなど、指導者のスキルアップを図っている。

### 3 競技力向上に伴う将来・次世代のアスリート誕生に向けて

前述 1 の現状と課題及び 2 の他県での取組みを踏まえ、アスリート誕生に向けたヒントになるであろう方向性を 3 点に絞り述べる。

これらの方向性は、各市においてもそれぞれ取組みが進められているところではあるが、各々の地域特性を生かしながら、さらなるレベルアップあるいはボトムアップを図る必要がある。しかし、1 自治体では限界の部分もあるため、国、東京都との役割分担を図るとともに、多摩 26 市が連携して広域的に、将来・次世代のアスリートを育てる機運を醸成する必要もある。

#### (1) 原石から輝くダイヤモンドへ ～発掘・育成する場の充実～

##### ○ あこがれの舞台へ ～発表する場の充実～

多摩地域の各市においては、ジュニアの各種競技大会が開催されている。それを発展させ、合同で開催するような広域的枠組みで実施することにより、他地域の選手との間で競い合う舞台を用意する。そこでは、レベルの違いを確認することができ、トップアスリート予備軍の発見・発掘に繋がることが期待される。

また、選手にとっても、ジュニア期から広域的レベルの競技大会などへの出



場機会を与えられることで、大会に向けてのモチベーションの高揚や技術の向上が図られることが期待できる。

そのほか、周知方法など大会運営のあり方について工夫を凝らすことで大会の価値を高め、たくさんの市民が観戦し、参加する選手がステータスを感じることでできる大会とする仕組みを構築していく必要がある。

平成24年度には、東京多摩国体に向けたリハーサル大会も開催される。子どもに対してもそのような規模の大会を設定することも検討に値すると考える。

## ○ あこがれへの導き ～トップアスリートとの交流～

子どもにとっての“スポーツ選手へのあこがれ”は、大変重要な要素である。

各種競技会の開催などによる選手との交流はもちろん、プロスポーツ選手やメダリストなどと交流をすることにより、あこがれの醸成、専門的指導による技術の向上などが期待できる。

そのきっかけとして、東京多摩国体を契機に、トップレベルの各種大会などを地元の施設で継続的に開催することや、世界陸上などのワールドワイドの大会にあっては、その合宿地として地元施設を活用することにより、トップレベルの選手を身近に見ることができ、あこがれに導くことができる。

## (2) より良い指導者に巡り合えるために ～指導体制の充実～

### ○ よい選手はよい指導者から ～指導者の養成・確保～

良い選手を輩出するには、選手本人のレベルや努力はもちろんであるが、質の高い指導者も重要な要素である。そのためには指導者養成、研修などによる現在の指導者のレベルアップが必要である。さらに、選手と指導者とを結びつける環境を整備するとともに、指導者同士の交流を深めることにより、指導者層の拡大、指導レベルのボトムアップが図られる。

また、指導者の確保には、大学生の活用や地域に埋もれている人材を発掘・活用する仕組みの構築が求められる。

### ○ 運動部活動から

東京都においては、教員の評価対象に部活動に対する取組みが加えられるなど、教員の部活動に関する環境改善が進められ、部活動の質の向上が期待されている。しかし、教員の異動などに伴い、部活が廃部となったり、指導スキルの違いや指導方法の変化によって部活動運営に関する安定性が損なわれてしまうことがある。

指導者講習会などの充実を図り、学校教員の指導力の向上を行うことに加え、スポーツキャリアのある市民や民間スポーツ施設の指導者などの外部指導者を活用し、地元地域との連携も踏まえながら、部活動運営の安定性の確保並びに魅力を高める必要がある。

## ○ 子どもの成長にあわせて ～一貫指導と体へのいたわり～

特にジュニア期においては、進学など成長していくごとに練習環境が変化してしまうことが多く、一定の指導理念が整った形で指導を行わないと子どもの競技力の向上の妨げになってしまう場合がある。

指導者や練習場所に関わらず、一貫した指導理念のもと、個人の特性や成長に応じた最適の指導ができる体制を整えることが必要である。

また、選手が安心してプレイし、さらなる技術の向上を図るためには、スポーツ医・科学サポート体制の整備を図る必要がある。これには、スポーツドクター、トレーナー、カウンセラー、管理栄養士などスポーツ医・科学に関するスタッフの養成、確保のための研修会などの開催が考えられる。

そのほか、指導方法、スポーツ医・科学に関する情報を一元的に管理・運用するシステム作りも必要である。

## (3) 地域からのバックアップ ～地域のスポーツ活動環境の充実・側面的支援～

### ○ 総合型地域スポーツクラブ等の充実

現在設置されている総合型地域スポーツクラブにおいては、文部科学省が提唱している特性を満たしているところが少数であり、特に、ジュニア育成の視点においては、種目数が限られていたり、レベル別に応じたプログラムが少ない。今後は、子どもに特化したメニューを充実させ、きめ細やかな指導を行う必要があるとともに、学校部活動との連携を図ることなども必要である。

また、多摩地域には数多くの他の民間スポーツクラブがある。今後は、これらのスポーツクラブとの連携をとるなど、スポーツ活動の環境の幅を広げる取り組みを行うことも肝要である。

### ○ 応援・支援体制の構築

アスリートになるには、選手本人の力だけでなく、指導者、トレーナーからの支えや家族、地域からの応援によって、選手は、これまで以上に力を発揮することができ、成長する。応援するにあたっては、単に選手と直接関係のある人だけでなく、地元の商店街、企業、団体などを巻き込みながら、地域でジュニア選手を育成する機運を高め、成長させていく必要がある。

また、各競技団体が行うスポーツ活動には財政的な負担が伴うことは言うまでもなく、活動を継続し充実させていくには、安定的、継続的に財政支援をしていくことが重要である。

#### 4 将来・次世代のアスリートの誕生に向けての施策 ～提案～

前述3のアスリート誕生に向けた方向性を基に、その具体的な展開として、次の3つを提案する。

##### (1) 指導者ネットワークの構築

###### ○ 指導者のデータベース化 ～指導者バンク～

各市において、地域内にいるスポーツ指導者を発掘することも含めリストアップし、データベース化する。データベースは、市内のスポーツ関係機関において情報共有できる形とし、指導者とジュニア選手のマッチングのために活用したり、学校や総合型地域スポーツクラブなどが外部指導者を見つけるための参考として活用するなど、アスリートの卵を地域全体で支える仕組みを整えるためのものとする。

###### 【データイメージ】

登録日	
指導者名	
指導種目	
指導経歴	
PRコメント	
指導可能日	
連絡先	

###### ○ コミュニティサイトの構築

前述の指導者バンクに登録している人材を中心として、多摩地域のジュニア選手、体育協会や民間スポーツクラブなどのスポーツ関係機関も閲覧でき、指導者同士や選手との交流の拠点となる、会員制コミュニティサイトを構築する。

本サイトを構築したことによる波及的、発展的な形として、指導者の指導力向上のための研究会、講習会の実施、ジュニア選手や指導者のための各種相談会、プロスポーツ選手などとの交流会、指導者交流会などのイベントを実施することが期待できる。

##### (2) スポーツ振興基金の創設

各市においてスポーツ振興に資する基金を設け、将来のアスリート選手を応援するための活動資金とするなどの支援を図り、競技力向上を図る一助とする。

基金の用途については、施設整備といったハード面も考えられるが、下記のようなソフト面に対しての経費に対する財政的支援策として活用する。

###### 【基金の主な活用例】

- 優秀選手や指導者・団体への表彰
- 競技大会のステータスを上げるための経費（有名選手の招聘、優勝者へ海外短期スポーツ留学特典など）
- 指導者養成に要する経費
- スポーツ医・科学サポート体制の整備に要する経費
- 学校部活動充実に要する経費（外部指導者活用費など）
- 総合型地域スポーツクラブで行う競技力向上に係る経費（講座開催など）
- 選手応援などに要する経費（大会派遣など）

### (3) 多摩総合スポーツセンターの設置

各市が、前述 (1)、(2) の提案などを含めた取組みを進めることにより、競技力向上に関する底上げが期待されるが、多摩地域全体として一定の方向性を持ち、総合的に推進していくことで、より大きな力となりその効果が現れてくるものと考えられる。

このためには、あらゆるスポーツ関係の施策を統括し、まとめていく場としての総合的な多摩 26 市のスポーツ振興拠点の設置（「(仮称) 多摩総合スポーツセンター」）が必要である。

平成 28 年度にまでに整備される予定の武蔵野の森総合スポーツ施設を活用した拠点設置も一案として検討に値するものとする。

#### 【(仮称) 多摩総合スポーツセンター参考例】

トップの選手や指導者を招聘するためのコーディネートを担う場、あるいは、指導者の人材バンクを総合的に管理する場など、情報を広く共有化することなどを前提とした上で、次の機能を参考として例示する。

##### ● スポーツサポーター制度

ボランティアを組織化するなど、市域やスポーツ種目の枠に捉われない、多摩地域出身のアスリートやアスリート予備軍を応援するサポーター制度

##### ● 多摩 26 市スポーツ振興基金

一自治体では、なしえないより広域的なスポーツ振興を行うための活動資金の受け皿としての基金

##### ● アスリートとのパートナーシップ

多摩地域をホームタウンとするトップチームや多摩地域を本拠地として活動する選手を応援・支援する一方、チームやアスリートが遠征などをするとき、「(仮称) 多摩スポーツ版観光大使」として多摩地域の魅力の向上のため積極的に PR してもらうようなパートナーシップ協定

##### ● 交流の場の提供～多摩スポーツアカデミー～

プロスポーツ選手などとの交流会、ジュニア選手や指導者のための各種相談会、指導者交流会、ジュニア強化選手の育成等の実施

## 第4章 地域とアスリートとの結びつき—スパイラル構造のスポーツ環境—

これまで述べてきたように、子どもの体力・運動能力向上をベースに、競技力の向上を図ることは、多摩のスポーツ振興の土壌づくりとしては大変重要なことである。さらに、スポーツ振興を通じたまちの活性化もその目的として視野に入れなくてはならない。そのためには、地元にかかわりのあるアスリートや有名な指導者を貴重な人的資源としてどのように活かしていくかも重要なポイントとなる。

そこで、まず、アスリートを、年代を超えた多くの市民で支援、応援したい。地域が一体となることにより、より活気のあるまちづくりにつながっていくのではないかと考える。

また、アスリートや有名な指導者を、積極的に地元に戻させたい。地域との結びつきにより、スポーツの奨励につながっていくものと考えている。

このように、スポーツを通じたまちの活性化やスポーツの奨励は、スポーツ活動の底辺拡大という効果をもたらす、底辺が拡大することによってトップアスリートの卵が育つ環境が増えるという好循環（スパイラル構造のスポーツ環境）が生まれてくるものと考えている。

### 1 我がまちのアピールポイントに

「豊かな自然」、「まちのシンボル」、「地元の名産品」、「観光スポット」など、ご当地ならではの資源としてまちをアピールする材料は、多種のジャンルに及ぶ。もちろんスポーツというジャンルにおいても、地元出身のアスリートやチームは、シティーセールスのための材料に十分なり得る。

多摩地域には、アスリートも存在するしプロチームもある。しかし、その存在は一般的にあまり知られていないのではないだろうか。これらアスリートの活躍ぶりを、シティーセールスの材料として、積極的に情報発信したいところである。

#### (1) 有望選手を追いかける ～活躍情報の把握～

地元で芽を出した小学生、中学生が、将来的に地元のみで競技者として育成されることは稀な例である。大多数の有望な人材は、地域外の高等学校、大学、企業などへと進み、アスリートとなっていくことであろう。現在でも、近隣県への高等学校などへ流出している例も多くある。果たしてその場合、地元、地域の方たちはその選手の活躍ぶりを継続的に知り得ているだろうか。

地元出身のアスリートの活躍ぶりを把握し、支援していくことにより、地元で馴染んだ愛着のある選手となるのではないかと考える。そのためには、アスリートになってからではなく、有力な人材の情報を常につかんでいくことが必要になってくる。

#### (2) 地域ぐるみでの応援

活力のある地域を見ると、「元気・明るい・気持ちがいい」があてはまり、このような場所には自然と人が集まってくる。スポーツの効用には「元気・明るい・気持ちがいい」があり、スポーツが地域の活性化につながることは間違えない。

老若男女すべてが、選手やチームを地域ぐるみで応援することにより、地域全

体が盛り上がれば、それを契機として、まちがより活性化することが期待される。

例えば、現在、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に在籍している FC 東京や東京ヴェルディ、また、日本フットボールリーグ（JFL）に在籍している FC 町田ゼルビアなどは、地域社会への貢献度も高い多摩地域に密着したチームである。また、他のスポーツにおいてもそのようなチームは存在し、今後も出現する可能性は大いにある。多摩地域全体で応援する機運を高めたいものである。

その応援の機運を盛り上げるため、スポーツを「観る・応援する」仕組みとして、地元の児童や生徒、スポーツチーム、地元出身のスポーツ選手などの活躍に関して得た情報を、市民に広く紹介することが必要となってくる。

このため、市報にその選手の成績コーナーなどを設けたり、各市のホームページに選手情報を専門に紹介するページを作ったり、また、CATVなどで放映することも効果的であると考えられる。また、商店街などの協力を得て地元の学校の大会出場セールなどを催したりして応援していくことも、市民の関心をスポーツに向け、応援し、スポーツの機運を高める有効な手段と言える。

## 2 アスリートや指導者の活用 ～「押し上げる力」と「引き上げる力」～

アスリートの華麗な技、スピード、力などを目の当たりにすれば、子どもたちのあこがれは必ず芽生えるはずである。さらに、そのアスリートや有名な指導者に実際に指導されれば、あこがれは増し、また、家庭や地域での話題になり、スポーツへの関心に対する波は、大きなうねりとなるに違いない。

間近で見られる大会の開催やアスリートや指導者との交流会などにより、スポーツ活動の底辺が拡大すれば「押し上げる力」が強まる。また、アスリートや有名な指導者をうまく活かし、高レベルの指導を提供することにより「引き上げる力」が生まれる。

ここで、好例として、千葉県印西市で行われている「印西街かど棒高跳」を紹介したい。

### 【印西街かど棒高跳】

「印西街かど棒高跳」は、現在の棒高跳び日本記録保持者でオリンピック選手の澤野大地氏を印西中学校時代に教員として指導した、IPVA（印旛ポールヴォルトアカデミー）事務局の岩井浩氏（中学校教頭）が発起人となり 2001 年から始まった。棒高跳びを世の中に広め、身近に感じてもらうため、「待っていては、観客は来ない」との視点から、大型商業店舗



に目をつけ、その広場を利用して実施している手作りの大会である。第1回大会には澤野選手も出場し、現在では、中学生から一般まで、100名程度の参加者もある。大会と同時に実施されている「まちかど棒高教室」にも多くの子どもたちが参加し、棒高跳びの醍醐味を味わい、保護者からも大変喜ばれている。訪れた買い物客も自然と観客となり、間近に見るダイナミックな跳躍に歓声と拍手が起こり、観客も大満足



で盛り上がっている。さらに、千葉県アスレティックトレーナー協議会の協力によるトレーナーステーションも設けられ、選手のフィジカル面などのサポート体制も整えている。

※ 写真：「印西街かど棒高跳」HPより <http://www.justmystage.com/home/qbehouse/machikado/>

大会が、このように盛り上がっている背景には、スタッフの熱意はもちろんであるが、関係者の理解と協力、さらには地元出身の選手を組織ぐるみ、地域ぐるみで応援していることがある。一流選手と触れ合いながら、観客により身近な場所で行うことで、底辺の拡大につながり、地域の活性化にも大いに効果があるものとなっている。

幸い、多摩地域には、地元にはゆかりのある優秀な選手やコーチが各種の種目で相当数存在し、さらに、会場となりうる場所も多く存在している。トップの選手や指導者を地元に戻させることだけではなく、競技場にこだわらない工夫などから、街中にあるものをスポーツ活動への資源としてとらえ、うまく活用したい。

### 3 東京多摩国体を契機とした地域の活性化

アスリート地域に結び付けるツールとして、地元多摩地域の選手を含めたトップレベルのアスリートが身近に集う東京多摩国体は絶好の機会である。

行政の体育、環境、商工、観光、地域、広報などの各部門が連携し、学校、体育協会、町内会などと協力してネットワークをつくり、「競技、おもてなし」を盛り上げていく仕組みをつくらなくては、大会の成功に結び付けることはできない。そのネットワークによる選手への「おもてなし」は、地域とアスリートを結びつける有効な手段である。

さらに、構築されたネットワークを東京多摩国体終了とともに終わらせるのではなく、引き続き活用することで、今までにないスポーツ振興を総合的に図ることができる体制が継続されると考える。そのためには、行政がリードすることはもちろんであるが、地域の住民が自ら参画して、「とにかく行動を起こそう！」を合言葉に、自らが楽しみながらイベントなどを開催し継続していくことが肝要である。人が集まり、地域全体でスポーツに取り組むムーブメントを起こすことで、地域に活力を与えることにつながっていくと考える。

### 4 応援する仕組みのきっかけづくり ～提案～

#### (1) 応援情報の発信

アスリートの応援のため、その選手の情報を収集するといっても、誰がどこでどんな活躍をしているかを詳細に知ることは至難の業である。しかし、その選手の家族や親戚、ご近所、学校などでは話題となっていることは間違えない。

そこで、たとえば、そのような情報を共有できる仕組みとして、個人情報保護の配慮のもと、市のHPに専用のページを設け、活躍している選手の近況の情報などを投稿するような方法により、みんなで応援するきっかけを作ってみてはどうだろうか。(図3、図4参照)

投稿日		
種目		▼
大会レベル		▼
選手名		
出身・在籍等		
コメント (30文字以内)		
投稿者		

**図3 応援情報を投稿する入力イメージ**

投稿日	種目	大会レベル	選手名	出身・在籍等	コメント
2010.6.10	サッカー	関東大会	東京太郎	●●中学校	〇〇高校へ進学後、関東大会出場。対〇〇高校戦で1得点ゲット。勝利。
2010.7.25	野球	全国大会	東京次郎	〇〇町在住 ◆◆高校	□□高校で、夏の甲子園出場決定。皆さんも応援よろしくお願ひします。
2010.10.11	柔道	都大会	東京花子	〇〇小学校在学	東京都少年少女柔道大会で、3年生の部で準優勝。

**図4 投稿された情報を紹介するイメージ**

## (2) 地元選手応援・観戦ツアー

日ごろスポーツを実践していない市民に、スポーツの楽しみ方を知ってもらうためには、スポーツを「観る・応援する」ところから始めたい。そこで、まず、東京多摩国体を契機に、興味をスポーツに向けるため、地元選手応援・観戦ツアーを設定してみよう。

「地元開催で、東京都の選手を応援しないでどうする」とのコンセプトから、東京都の選手が出場する競技会場を巡る観戦ツアーを実施してはどうか。

また、選手の応援のみならず、各市をアピールすることも考慮に入れ、観光スポットなども含めた観戦ツアーを、旅行会社とタイアップして実施してはどうか。

さらに、東京多摩国体の応援にとどまらず、各種のスポーツ大会やスポーツイベントに出場する地元の小・中学生をはじめとする選手を、地域全体で応援するような仕組みに発展させていきたい。



## おわりに

スポーツという概念は、一般的には、競技スポーツやレクリエーションスポーツといった身体運動を伴うものととらえられている。本来、スポーツの語源は、「気晴らしをする」、「休養する」、「遊ぶ」といったことなどを意味していたといわれ、老若男女を問わずいつでもどこでも楽しめるものである。

閉塞感のある現在の社会を活気づかせるため、少なくとも、語源にあるような意味を込め、スポーツを通じ、競技する人、見る人、応援する人が一体となって、地域を盛り立て、「多摩皆スポーツ」による多摩地域の活性化につなげていきたい。同時に、多摩地域における本質的なスポーツ文化（するスポーツ、見るスポーツ、支えるスポーツ）が定着することを期待してやまない。欲を言えば、将来、多摩からオリンピック選手が多く誕生すればなおさらうれしい。

最後に、本提言のために、貴重なお時間を割き、御教授いただいた関係各位に、また、アンケート調査に協力いただいた多摩26市の担当者に対し、心からお礼申し上げます。

### ご協力いただいた関係各所（順不同）

- 富山県教育委員会スポーツ・保健課
- （財）山口県体育協会競技力向上対策本部
- 山口県教育庁学校安全・体育課
- 千葉県教育庁教育振興部体育課学校体育室
- 千葉県印旛ポールヴォールトアカデミー事務局
- 福井県教育庁スポーツ保健課
- 福井県福井市本郷小学校
- 東京都スポーツ振興局スポーツ事業部事業推進課
- 東京都教育庁指導部体育健康教育担当課
- 東京都羽村市立松林小学校
- 東京都小金井市立小金井第二小学校
- 東京都府中市立府中第十小学校



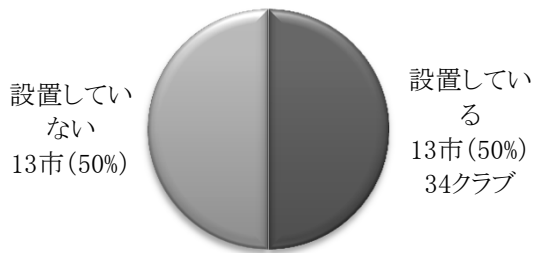
# 資料編

～多摩26市に対するアンケート結果～



## 【Ⅰ・Ⅱ 総合型地域スポーツクラブについて】

Q1 総合型地域スポーツクラブを市内に設置していますか。



設置している市の人口に対する加入率

8.60%	1市
0.50%	2市
0.40%	2市
0.30%	1市
0.20%	3市
0.10%	3市
把握していない	1市

Q2 総合型地域スポーツクラブについて。(自由記入)

「課題・問題点等」より代表的な意見を抜粋

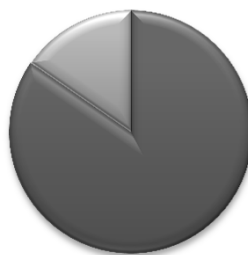
- |              |               |
|--------------|---------------|
| ● スタッフの確保    | ● 学校部活動との連携   |
| ● 財源の確保      | ● 指導者の確保      |
| ● クラブハウスの確保  | ● 既存団体との関係    |
| ● 施設の確保      | ● 他のクラブとの情報交換 |
| ● 会員、会員世代の拡大 |               |

## 【Ⅲ スポーツ団体について】

「スポーツ団体についてお答えください。」より

日ごろからスポーツを行っている団体について。

把握できていない  
4市 (15%)



把握できている  
22市 (85%)

会員の年齢階層について

把握できていない  
22市 (85%)

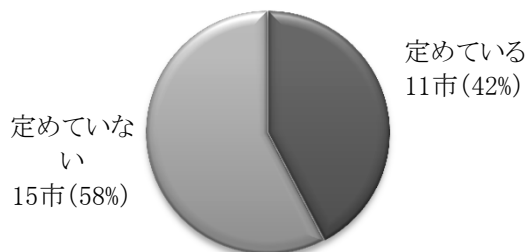


把握できている  
4市 (15%)

#### 【IV 目標スポーツ人口について】

「目標スポーツ人口についてお答えください。」より

平成26年度(国体後)の目標スポーツ実施率を定めていますか。



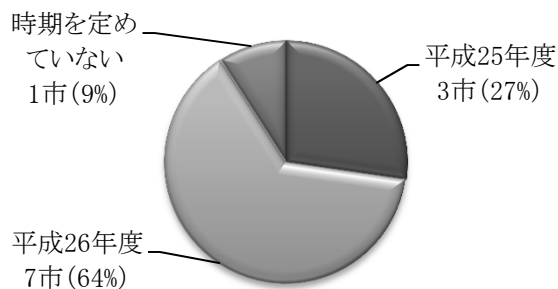
定めている市の内訳

全体のみ	4市
成人のみ	5市
全体・成人の両方	2市

定めている実施率

目標スポーツ実施率	50%	45%
全体のみ	6市	0市
成人のみ	6市	1市

#### 目標スポーツ実施率の設定年度(東京多摩国体:平成25年度)



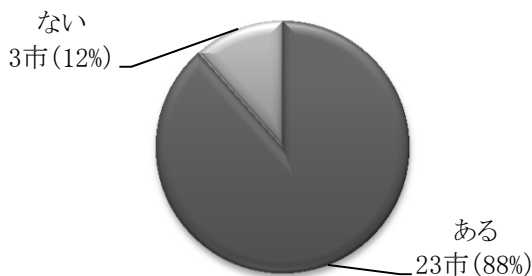
#### 【V 競技力向上について】

Q1 貴市内で、競技大会(全国大会等)に適した施設(市施設以外も含む)はありますか。



Q2 スポーツ振興に向けて、貴市スポーツ関連施設の整備等を行っている(過去5年間)または予定がありますか。

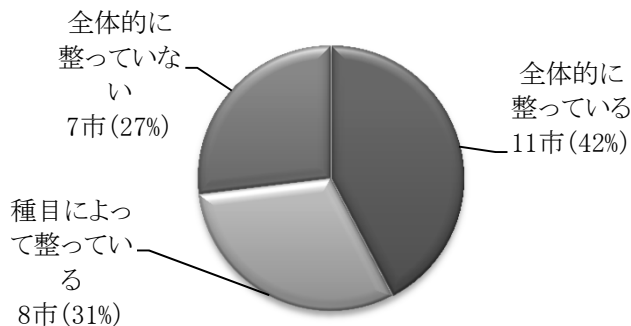
Q2-1 東京(多摩)国体競技開催施設について



Q2-2 それ以外の施設について



Q3 貴市における指導者体制は整っていますか。



Q3-1 整っていると考えられる理由は何ですか。(自由記入。代表的な意見を抜粋)

- 体育協会及び体育協会加盟団体により指導者研修等が実施されており、一定の指導者育成がなされている。
- 市の体育協会加盟団体がそれぞれの団体で指導者養成を実施しているため。
- 体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団により各競技の取りまとめ、指導体制がとられているため。
- 学区域毎に配置した体育指導委員・体育協会のスポーツ指導員、体育協会加盟団体による教室等を開催しているため。
- 体育協会加盟の31団体による初心者教室、長期教室が実施されているため。

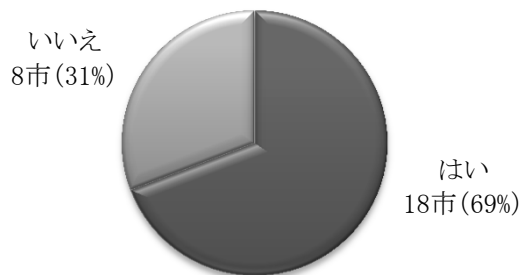
**Q3-2 整っている種目は何ですか。**

種目名	<ul style="list-style-type: none"><li>● サッカー:5市</li><li>● 野球(少年・少年軟式含む):4市</li><li>● バレーボール:2市</li><li>● 柔道:2市</li><li>● 卓球:2市</li><li>● その他(ニュースポーツ(ドッジビー)、カヌー、ソフトテニス、ソフトボール、空手道、剣道など)</li></ul>
-----	---

**Q3-3 整っていないと考えられる理由は何ですか。(自由記入。代表的な意見を抜粋)**

<ul style="list-style-type: none"><li>● 指導者のデータバンクがなく、指導者の把握ができていない、指導者がいない。(同様2例)</li></ul>
--

**Q4 関係機関(体育協会、NPO、大学、民間等)と連携して、専門的な指導を行うなど子ども達の競技力向上に関する取り組みを行っていますか。**



**Q4-1 どのような取り組みですか。(自由記入。代表的な意見を抜粋)**

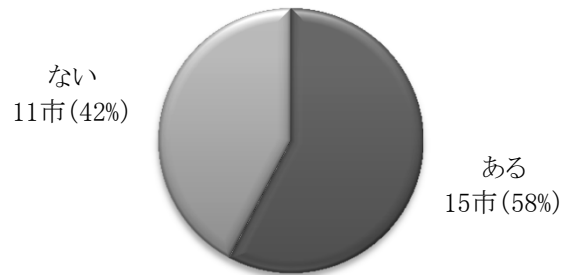
<ul style="list-style-type: none"><li>● プロサッカー клуб東京ヴェルディと連携したサッカーキャンプや小学校への指導者派遣など。</li><li>● 国士舘大学体育学部との連携による陸上競技、ハンドボール等事業。</li><li>● 早稲田大学と連携し、市内小中学生を対象に硬式及び準硬式野球部監督・コーチ・選手による、野球教室を年2回開催している。</li><li>● プロサッカークラブFC東京と連携し、市内小学生を対象に現役コーチングスタッフによる、サッカー教室を年2回開催している。</li><li>● 市内小学生を対象にプロ野球チーム埼玉西武ライオンズOBによる、野球教室を年1回開催している。</li></ul>
---

**Q4-2 取り組みを行っていない理由は何ですか。(自由記入。代表的な意見を抜粋)**

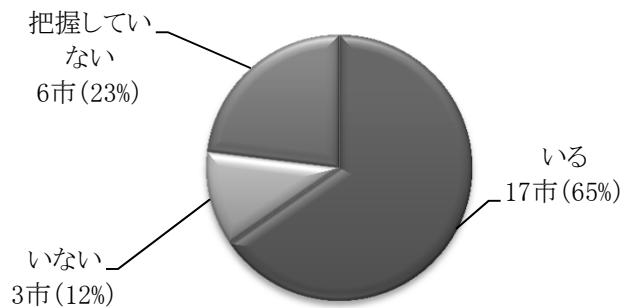
<ul style="list-style-type: none"><li>● 各連盟がジュニア育成のため、児童・生徒を対象に指導を行っている。</li><li>● 体育協会がジュニア育成地域推進事業を実施しているため。</li></ul>
--



Q5 貴市内のスポーツ関連施設において、過去5年間で全国・社会人レベルの競技会が行われたことがありますか。



Q6 貴市出身、貴市に馴染みのあるトップアスリートがいますか。



Q7 その他、競技力向上に関して 特徴的な取り組みがあればお書き下さい。(自由記入)

- 国士舘大学体育学部の指導者が競技団体に協力し、目覚しい向上が見られる。(都民体育大会剣道3連覇など)
- 東京ヴェルディに市から出資しており、各種教室などの提供を協力してもらっている。

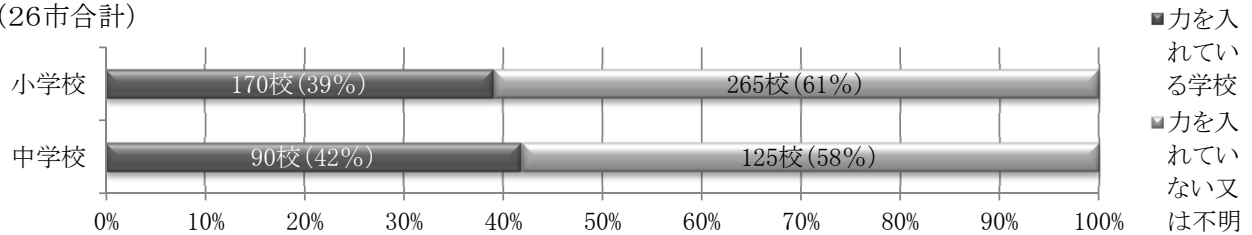
## 【VI 児童生徒の体力向上について】

Q1 貴市が所管する、小・中学校は全部で何校ありますか。

26市合計	小学校 435校
	中学校 215校

**Q2 貴市所管小・中学校の、体育の授業における、児童生徒の体力向上のための取組みについて、特に力を入れている学校は何校ありますか。もしありましたら、その中で代表的な取組みを2～3挙げてください。(自由記入)**

(26市合計)



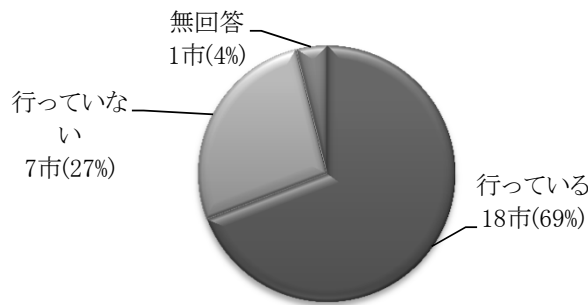
Q2 代表的取組みから抜粋(小学校)

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体育講師におけるチームティーチング型の授業の実践 (同様5例)</li> <li>● 中学校の教員や生徒による体力、運動技術向上のための指導</li> <li>● 「健康・体力づくりプラン」を作成し、強化月間を設けた縄跳びやランニングの実施</li> <li>● 体づくり運動の指導計画を見直し、全校で取り組んでいる</li> <li>● 「体づくり運動」の教員研修の実施</li> <li>● 持久力を高めるための運動に定期的に取り組んでいる</li> <li>● 持久走、体づくり運動、縄跳び</li> <li>● 5分間走</li> <li>● 授業開始時のジョギング、なわとび週間</li> <li>● マラソン大会、縄跳び大会</li> <li>● 朝の時間、縦割り班活動を通じ年間を通して、なわとび、持久走等の体力づくりを実施</li> <li>● 体力を高める運動の導入ーリーフレットを活用し、短時間で簡潔にできる運動を全学年で実施</li> <li>● 水泳カード、なわとびカードの作成と活用</li> <li>● スポーツ教育推進校 (同様9例)</li> <li>● 食育との関連を意識した取り組みを行っている</li> <li>● 体育朝会を充実させている (同様2例)</li> <li>● スポーツ選手活用体力向上事業</li> <li>● FC東京キャラバン隊によるサッカー教室</li> <li>● タグラグビーやバルーンを使った授業</li> <li>● ラジオ体操連盟によるラジオ体操示範</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業の充実と運動の日常化を目指した取組</li> <li>● 運動量の確保 (同様4例)</li> <li>● 固定遊具を取り入れた運動</li> <li>● 体力・運動能力調査の独自実施</li> <li>● 体力テストの診断項目を活用した、学習カードの作成</li> <li>● 一学級一実践で取り組んでいる</li> <li>● 季節に応じて、適した運動を全行的に重点的に指導する</li> <li>● 授業間運動を体力テストの種目と関連付けて実施</li> <li>● 校庭芝生化</li> <li>● コーディネーション運動を取り入れている</li> <li>● 児童が個別にねらいを把握し、授業後に振り返る</li> <li>● 全員外遊び</li> <li>● 器械運動の学習の際、全学年で「〇小ねこちゃん体操」を行い、柔軟性を高め、けがの予防に役立てている</li> <li>● 年間水泳(スイミングセンターを利用)</li> <li>● 玉川上水を歩く会</li> <li>● 学級を2グループに分け、課題別、目的別グループ編成実施</li> <li>● 市教育委員会研究奨励事業(研究指定校)</li> <li>● 研究協力校として、運動意欲の向上や体力の向上等を目指した授業改善</li> <li>● 校内研究を体育科としている (同様3例)</li> <li>● 体育部による「基礎運動」の推進(校内研修においては、実技研修の実施)</li> <li>● PTAとの連携によるニュースポーツ研修会の実施</li> </ul>
---	---

Q2 代表的取組みから抜粋(中学校)

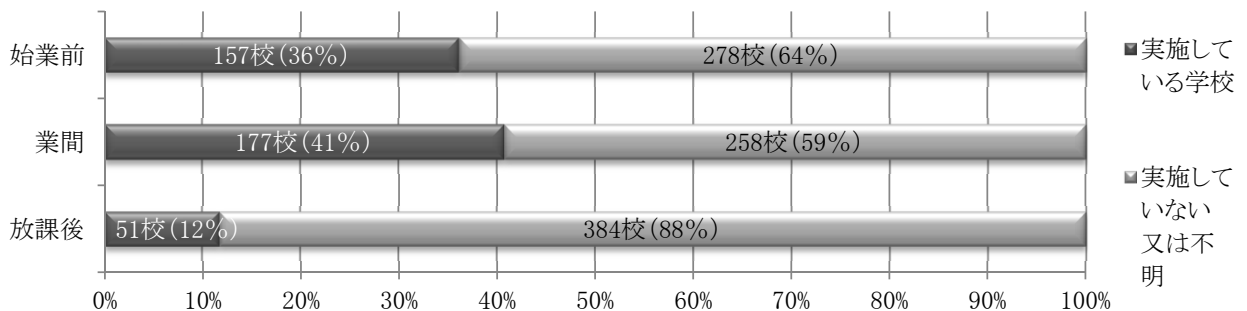
<ul style="list-style-type: none"> <li>● チームティーチングによるグループ学習の充実(同様5例)</li> <li>● スポーツ選手活用体力向上事業の活用</li> <li>● 筋力を高めるための運動を毎回の授業で取組む</li> <li>● 学校独自の体操の実施</li> <li>● 選択体育におけるフライングディスクなど多様なスポーツの実施</li> <li>● オリンピック学習を取り上げている</li> <li>● メダリストを招聘している</li> <li>● 外部指導員を活用した武道ダンスモデル事業</li> <li>● 体力、運動能力調査の独自実施</li> <li>● 新体力テストの結果分析より重点目標を決め、取り組んでいる</li> <li>● スポーツテストの結果で課題となった運動に授業導入時に取組ませる</li> <li>● 一人一人を大切にす指導を基盤とし、からだと心の健康を目指した取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シラバスを活用した授業展開の工夫</li> <li>● ウォーミングアップの工夫(倒立をする等)</li> <li>● 筋力アップの補助運動の実施(同様6例)</li> <li>● 身体作り運動の実施</li> <li>● 毎時間、腕立て、腹筋、ダッシュのトレーニングを導入している。(全学年)</li> <li>● 授業開始時、各学年の特性に合わせた基礎体力増進トレーニング導入</li> <li>● スポーツ教育推進校(他同様5例)</li> <li>● 全学年で準備運動等の中に合理的な身体操作方法の習得を取り入れ、運動の楽しさを味わえるようにする</li> <li>● ITC機器(ビデオ等)を活用し技能向上の意欲を高める</li> <li>● 授業前のランニング(同様2例)</li> <li>● 持久走(同様2例)</li> <li>● ミニオリンピック</li> <li>● マラソン大会</li> <li>● 少人数加配によるコース別授業</li> </ul>
---	---

Q2-2 Q2の取組みについて、教育委員会として施策の推進を行っていますか。



Q3 貴市所管小・中学校において、始業前、業間、平日の放課後のそれぞれにおいて、児童生徒の体力向上を目的とした取組みを実施している学校は何校ありますか。もしありましたら、その中で代表的な取組みを2～3挙げてください。(自由記入)

【小学校(26市合計)】



Q3 代表的取組み(小学校・始業前)

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● ランニング、マラソン、持久走(同様11例)</li> <li>● 縄跳び(同様12例)</li> <li>● 「TOKYO体操」の導入</li> <li>● TOKYO体操(シッティングバージョン)実施</li> <li>● 「〇小体操」を実施している</li> <li>● 体育朝会(同様6例)</li> <li>● 季節ごとの運動の重点</li> <li>● 駆け足タイム</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● リレー練習(運動会前)</li> <li>● 陸上練習</li> <li>● 朝遊び</li> <li>● ゆうゆうタイム(朝遊びの時間)</li> <li>● 外遊びの推進</li> <li>● ストレッチ体操、ゲーム集会</li> <li>● 市のドッジボール、サッカー大会等に向けての練習</li> <li>● 集団行動</li> </ul> |
|--|---|

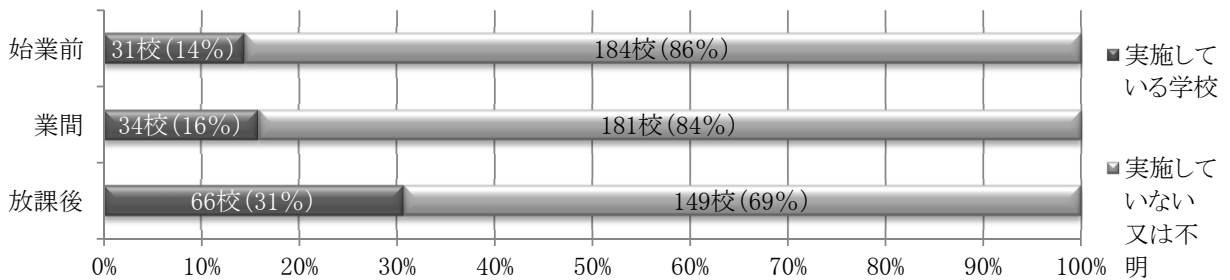
Q3 代表的取組み(小学校・業間)

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● ランニング、マラソン、持久走(同様20例)</li> <li>● なわとび、大なわ、長なわ(同様15例)</li> <li>● 外遊び(同様8例)</li> <li>● 「〇小体操」を実施している</li> <li>● 中休みのたて割り班での運動実施</li> <li>● バランスボール貸出し</li> <li>● 運動旬間</li> <li>● 体力アップタイム</li> <li>● ドッジボール、アスレチック</li> <li>● 学期ごとに重点を決めて月1回取組む</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 鉄棒(同様2例)</li> <li>● わくわくタイム(体育館と屋上スペースを学級毎に割り振って遊びを通して体を動かす機会を設定)</li> <li>● 遊具(竹馬、一輪車、Gボール等)を活用した運動</li> <li>● 体育講師を活用した体育の授業の充実</li> <li>● 校内記録(〇小ギネス)に挑戦するイベントの実施</li> <li>● 陸上競技(リレー)練習(その時期のみ)</li> <li>● 駅伝大会練習(その時期のみ)</li> <li>● 一輪車の貸し出し</li> </ul> |
|---|---|

Q3 代表的取り組み(小学校・放課後)

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学校の部活動との連携</li> <li>● カードを作成し、柔軟性を高める運動に取り組んでいる</li> <li>● なわとび、長なわ、ダブルダッチ(同様5例)</li> <li>● 持久走(同様3例)</li> <li>● 放課後子供教室(よさこい、野球、サッカー、ミニバスケット、縄跳び甲子園、タグラグビー等)</li> <li>● 校庭開放(同様3例)</li> <li>● 校庭開放を行い、ニュースポーツの取組</li> <li>● 体育実技研修の実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 水泳大会、陸上記録会に向けた練習</li> <li>● 市のドッジボール、サッカー、マラソン大会等に向けての練習</li> <li>● サッカー大会に向けての練習、スポーツクラブ活動</li> <li>● スポーツ教室(3~6年)毎週1回・・・ユニホック、バレーボール、ドッジボール</li> <li>● 陸上競技(リレー)練習(その時期のみ)</li> <li>● リレー練習(運動会前)</li> <li>● 駅伝大会練習(その時期のみ)</li> </ul> |
|---|---|

【中学校(26市合計)】



Q3 代表的取り組み(中学校・始業前)

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 運動部活動の朝練習の実施(同様4例)</li> <li>● 持久走(同様3例)</li> <li>● 体育祭や大会に向けた練習(同様5例)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 体力を高めるトレーニングの実施</li> <li>● なわとび</li> </ul> |
|---|---|

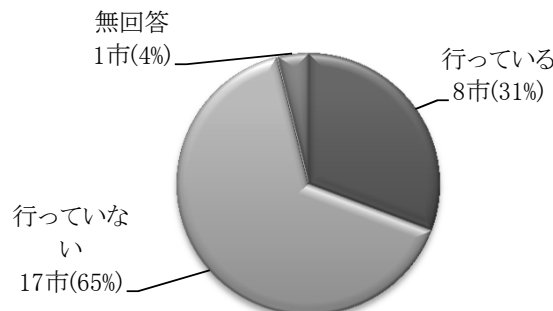
Q3 代表的取り組み(中学校・業間)

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 縄跳び、ランニング等に取り組んでいる</li> <li>● 体育館や校庭を開放(同様2例)</li> <li>● 休み時間にボールの貸し出し(同様3例)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● アスリートの学校への招待(テコンドー)</li> <li>● 武道、ダンスの授業の充実</li> <li>● 体力テストを定期的実施</li> </ul> |
|--|--|

Q3 代表的取り組み(中学校・放課後)

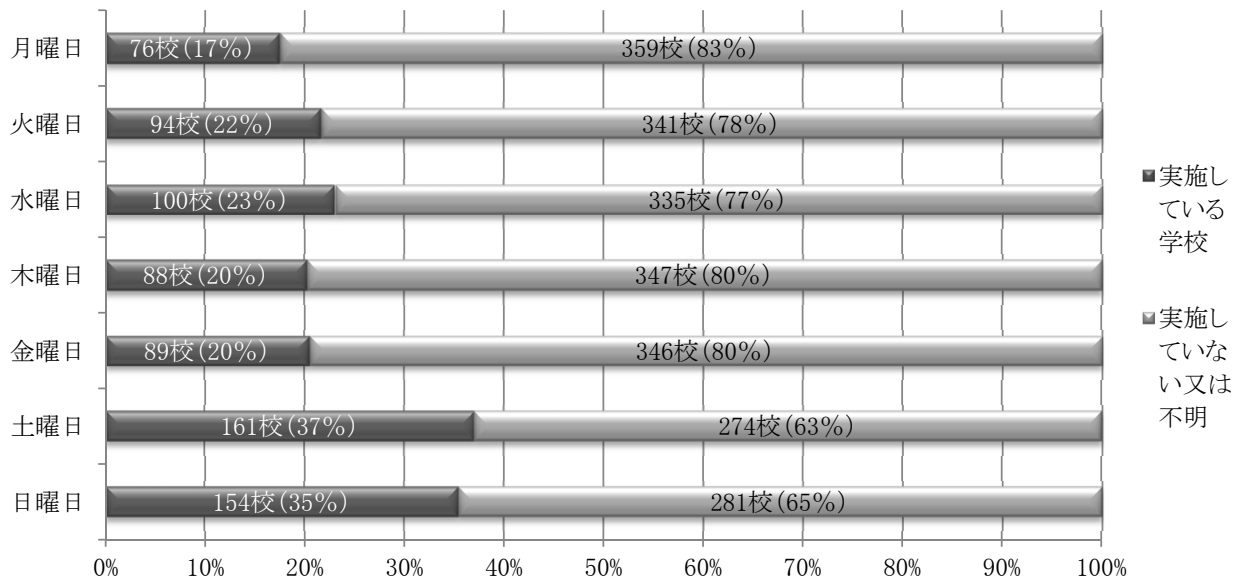
- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 運動部活動の実施(同様4例)</li> <li>● 体育祭や大会に向けた練習(同様5例)</li> <li>● 持久走への取り組み</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 部活動対抗ロードレース</li> <li>● 地域開放</li> </ul> |
|---|---|

Q3-2 Q3の取組みについて、教育委員会として施策の推進を行っていますか。

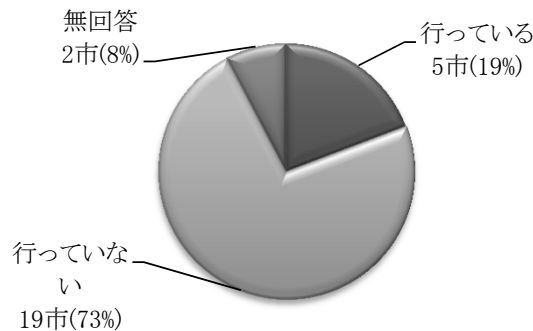


**Q4 貴市所管小学校において、平日の放課後、土曜日、日曜日を利用したの部活動やスポーツ少年団(種目は問いません)を実施している学校は何校ありますか。**

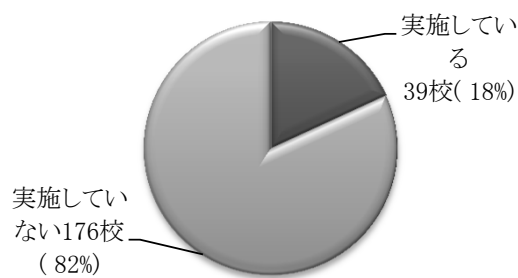
(26市合計)



**Q4-2 Q4の部活動やスポーツ少年団について、教育委員会として施策の推進を行っていますか。**



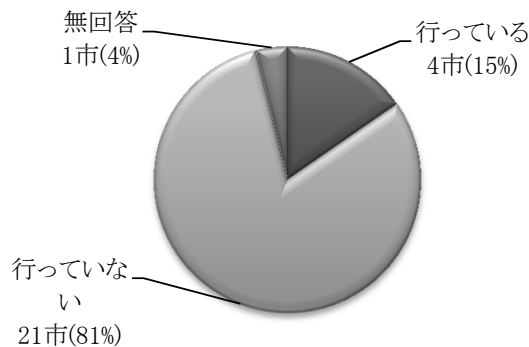
**Q5 貴市所管中学校において、運動部活動に所属していない生徒に向けて、授業以外で体を動かすことを目的とした取組みを実施している学校は何校ありますか。もしありましたら、その中で代表的な取組みを2~3挙げてください。(自由記入)**



Q5 代表的取り組み

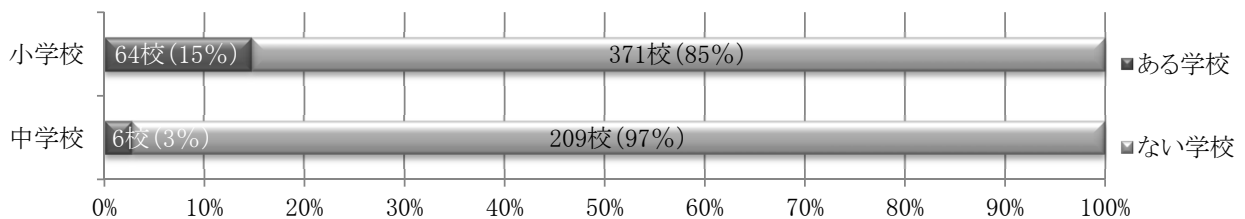
- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 運動会や大会に向けた練習(同様5例)</li> <li>● スポーツ選手活用体力向上事業の活用</li> <li>● 特別支援学級の生徒を対象として、放課後等に週2回程度、体育的な指導を行っている</li> <li>● クラスボールの用意や各種ボールの貸し出しによって、運動しやすい環境を整えている(同様2例)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新体力テストの実施</li> <li>● ミニオリンピック(年5回)</li> <li>● 夏季水泳指導への参加の呼びかけ</li> <li>● 昼休みにおける持久走へのチャレンジ週間</li> <li>● 「健康・体力向上週間」を設定し、学年ごとに朝のランニング(15分間走)を行っている</li> </ul> |
|---|---|

Q5-2 Q5の取り組みについて、教育委員会として施策の推進を行っていますか。



Q6 貴市所管小・中学校において、児童生徒が興味を持ち、自然と体を動かすような特徴的な施設や設備のある学校は何校ありますか。もしありましたら、その中で代表的な施設や設備を2～3挙げてください。(自由記入)

(26市合計)



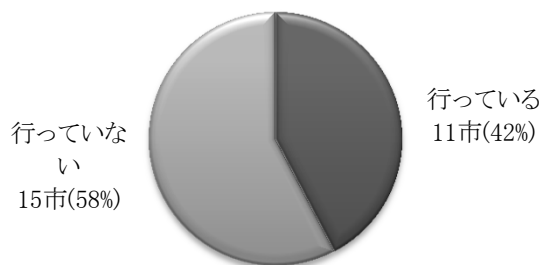
Q6 代表的な施設や設備から抜粋(小学校)

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 校庭芝生化(同様11例)</li> <li>● プレイマウンテン、タイヤの橋、ロープのはしご、的あて、アスレチック、タッチポール</li> <li>● 土の山をつくり、坂道を使った運動をしている(同様3例)</li> <li>● アニマルタッチ(倉庫の壁面に動物の絵があり、それをタッチして速さを競う運動)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 体力テストの種目の関連した遊具の開発</li> <li>● 土俵</li> <li>● ジャンプ・タッチ板</li> <li>● アスレチック施設</li> <li>● アスレチック、トンネル</li> <li>● なわとびのジャンプ台</li> </ul> |
|---|--|

Q6 代表的な施設や設備から抜粋(中学校)

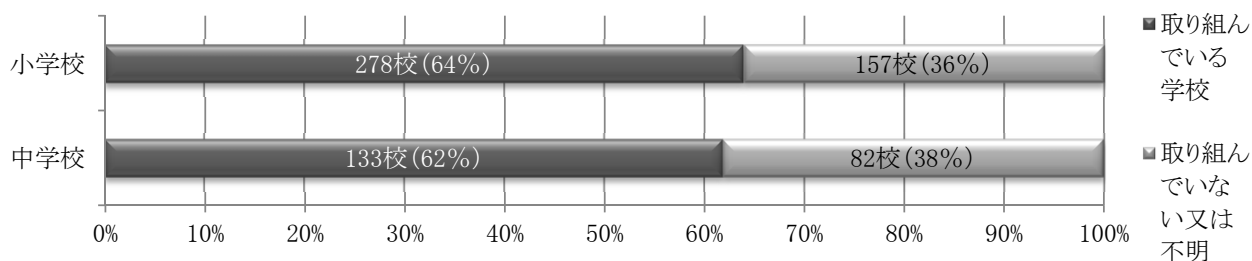
- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 武道場、弓道場、第2体育館、多目的施設</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教室2部屋分の広さに、全面畳を敷き、多目的室として活用している。</li> </ul> |
|---|--|

Q6-2 Q6の施設や設備の設置について、教育委員会として施策の推進を行っていますか。



Q7 貴市所管小・中学校において、生活習慣の向上について、取り組んでいる学校は何校ありますか。もしありましたら、その中で代表的な取組みを2～3挙げてください。(自由記入)

(26市合計)



Q7 代表的な取組みから抜粋(小学校)

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食育指導の実施(同様5例)</li> <li>● 食育講演会の実施</li> <li>● 食育クイズの取り組み</li> <li>● 早寝早起き朝ごはんへの取り組み(同様6例)</li> <li>● 歯みがきへの取り組み(同様5例)</li> <li>● あいさつ運動の実施(同様4例)</li> <li>● 保健委員会による手洗いやうがいの励行</li> <li>● 養護教諭との保健指導の実施</li> <li>● 体育、健康、食育を柱にした校内研究の取り組み(同様2例)</li> <li>● 小中一貫〇〇っ子カリキュラム(規範教育、キャリア教育、食育、英語活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生活習慣アンケートなどの調査(同様3例)</li> <li>● 生活アンケートの結果から「ノーテレビ、ノーゲームデー」の実施</li> <li>● 生活リズムカード、生活チェックカードなどの活用(同様7例)</li> <li>● 朝遊びやたてわり班遊びなどの場の工夫。異学年交流スポーツ大会の企画・運営など、学校全体で運動に親しむ機会を多くもうけている</li> <li>● 元気アップ運動</li> <li>● 学校だより、保健だより、給食だより等による啓発</li> <li>● 新体力テストのデータを活用した指導</li> </ul>
---	---

Q7 代表的な取組みから抜粋(中学校)

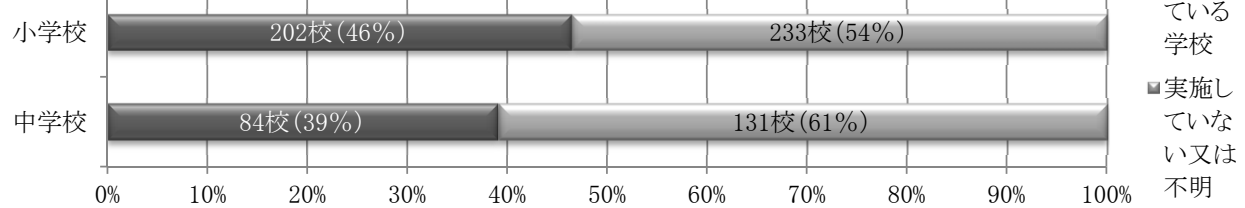
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生活習慣調査を行い指導へ生かす</li> <li>● 生活習慣のアンケート調査と結果の活用</li> <li>● 「生活習慣チェック表」を活用し、生活リズムの改善に向けた取組み</li> <li>● 早寝早起き朝ごはん</li> <li>● あいさつ運動の実施(同様4例)</li> <li>● 養護教諭による保健授業の実施</li> <li>● 健康教育講習会を全校生徒対象で実施、食生活及び体力運動能力の向上と健康づくりの意識を高めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒会による呼びかけ</li> <li>● 保健給食委員会で「牛乳を飲もう」キャンペーンを実施</li> <li>● 小中一貫〇〇っ子カリキュラム(規範教育、キャリア教育、食育、英語活動)</li> <li>● 新体力テストのデータを活用した指導</li> <li>● 食育指導(同様4例)</li> <li>● 歯みがき週間</li> <li>● 保健だよりでの啓発(同様3例)</li> </ul>
---	--

Q7-2 Q7の取組みについて、教育委員会として施策の推進を行っていますか。



Q8 貴市又は貴市主管小・中学校において、児童生徒の家庭と連携して体力向上や生活習慣の向上につながる取組みを実施している学校は何校ありますか。もしありましたら、その中で代表的な取組みを2～3挙げてください。(自由記入)

(26市合計)



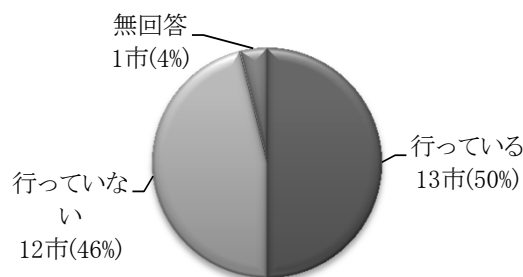
Q8 代表的な取組みから抜粋(小学校)

<ul style="list-style-type: none"> <li>● PTAとの連携によるニュースポーツ研修の実施</li> <li>● PTA主催のスポーツ大会</li> <li>● 地域子どもクラブによるスポーツ教室の開催</li> <li>● 体力テスト結果を個票により家庭へ配布(家庭学習としての体力向上に活用)</li> <li>● 持久走、縄跳び等の家庭での取組みのお願い</li> <li>● 運動習慣(マラソン、縄跳び等)の家庭への協力依頼</li> <li>● 運動の日常化について家庭に依頼</li> <li>● 市のスポーツ大会への積極的な参加を呼びかける。</li> <li>● 生活チェックカード、生活リズムカードをを活用した生活習慣の向上(同様3例)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種たよりによる家庭への呼びかけ、啓発(同様5例)</li> <li>● 生活習慣の向上に向けて、アンケート等調査の実施(同様3例)</li> <li>● 体力面、生活面に関しての話し合いの場を設ける。</li> <li>● 早寝早起き朝ごはん朝うんちなどの周知(同様6例)</li> <li>● 食育のプロジェクトで、一週間分の栄養をまとめている</li> <li>● 給食試食会において、栄養士が栄養バランス等について説明</li> <li>● 食育講演会の実施</li> <li>● 生活習慣病に関する指導</li> <li>● 親子はなまる週間</li> </ul>
--	--

Q8 代表的な取組みから抜粋(中学校)

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域子どもクラブによるスポーツ教室の開催</li> <li>● 体力テスト結果を個票により家庭へ配布(家庭学習としての体力向上に活用)</li> <li>● スポーツテストの結果を基にした家庭への協力の呼びかけ</li> <li>● トライ&amp;チャレンジ月間。家庭とともに運動に取り組むことの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種たよりによる家庭への呼びかけ、啓発(同様6例)</li> <li>● 早寝早起き朝ごはんの周知(同様2例)</li> <li>● 生徒が作成した生活予定表を、家庭でも確認。</li> <li>● 食に関するアンケートを保護者にも実施し、結果と総括を配布し、意識の向上を図る。</li> <li>● 朝ご飯をきちんと食べる習慣の確立(呼びかけ)</li> <li>● 自治会の運動会への参加、啓発</li> </ul>
---	---

Q8-2 Q8の取組みについて、教育委員会として施策の推進を行っていますか。





Q9 貴市において、全市の小学校又は中学校の児童生徒が一堂に会した体育大会を実施していますか(どちらかに○印を記入してください)。



【内訳】

- ・小学校1回 2市
- ・中学校1回 4市
- ・小学校、中学校各1回 2市
- ・中学校2回 1市
- ・小学校1回、小・中学校合同1回 1市

【小学校】

時期	期間	参加者数	種目
10月	3日間	5,100人	100m走、800m走、50mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳
10月	2日間	13,281人	100m走、800m走、50mハードル、400mリレー、走幅跳
10月	1日間	685人	100m走、長縄跳び、リレー
10月	1日間	350人	ジュニア駅伝大会
3月	1日間	132人 (希望者のみ)	100m走、100m×4リレー、800m×4ミニ駅伝

【中学校】

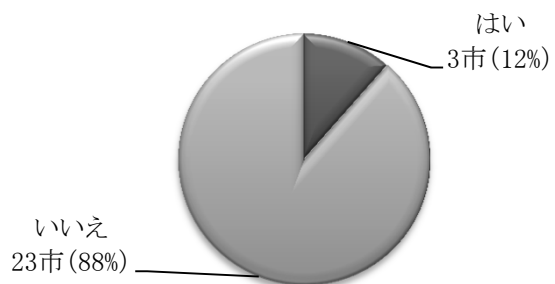
時期	期間	参加者数	種目
6月	1日間	673人 (中2のみ)	100m走、1000m走、2000m走、400mリレー、大縄跳び
7月	1日間	延650人	中学校陸上競技大会
7月～9月		無回答	バスケットボール、卓球、硬式テニス、バドミントン、バレーボール、バレーボール、ソフトテニス、野球、サッカー、柔道、ソフトボール、陸上競技
9月	1日間	800人 (希望者のみ)	100m走、100m×4リレー、800m×4ミニ駅伝
10月	2日間	980人	100m走、200m走、400m走、800m走、1500m走、3000m走、100mハードル、110mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、棒高跳、砲丸投
10月	1日間	約800人	100m走、200m走、400m走、800m走、1500m走、3000m走、100mハードル、110mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投
12月	1日間	199人	中学校駅伝大会
12月	1日間	79人	2km走

【小学校・中学校合同】

時期	期間	参加者数	種目
9月	1日	550人(内訳:小学生350人、中学生200人)	陸上競技大会

## 【Ⅶ スポーツ振興に関する基金について】

Q1 貴市において、スポーツ振興に関する基金がありますか。



平成23年2月25日

東京都市長会事務局 企画政策室

〒183-0052

東京都府中市新町二丁目77番地の1(東京自治会館内)

TEL 042-384-6396

FAX 042-384-6978

e-mail [mayors-ki@crux.ocn.ne.jp](mailto:mayors-ki@crux.ocn.ne.jp)

